

# 特定機能病院の業務報告

(令和3年10月1日現在)

名古屋市立大学病院



# 目 次

(様式第 10)	名古屋市立大学病院の業務に関する報告について	1
(様式第 2)	高度の医療提供の実績	6
1	承認を受けている先進医療の種類(注 1)及び取扱患者数	6
2	承認を受けている先進医療の種類(注 1)及び取扱患者数	7
3	その他の高度の医療	8
4	指定難病についての診療	17
5	届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)	21
6	届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)	22
7	診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術	25
8	病理・臨床検査部門の概要	25
(様式第 3)	高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類	26
1	研究費補助等の実績	26
2	論文発表等の実績	48
3	高度の医療技術の開発及び評価の実施体制	67
(様式第 4)	高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類	69
(様式第 5)	診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類	79
(様式第 6)	病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類	83
(様式第 6)	規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制 の確保に係る措置	84
(様式第 6)	規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保 に係る措置	86
(様式第 6)	規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための 体制の確保に係る措置	88
(様式第 6)	規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための 体制の確保に係る措置	92
(様式第 6)	規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 13 号の二に掲げる事項の実施状況	93
(様式第 6)	規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準	99
(様式第 6)	規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運 営状況	99
(様式第 6)	規則第 9 条の 23 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うため の合議体の設置及び運営状況	101
(様式第 6)	規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況	103
(様式第 6)	規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会 に関する状況	105

(様式第6)	規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置	-----106
(様式第6)	規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置	-----107
(様式第6)	規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況	-----108
(様式第7)	専門性の高い対応を行う上での取り組みに関する書類	-----108

(別紙1) 医療に係る安全管理のための指針

(別紙2) 医療安全管理委員会設置規程

(別紙3) 安全管理の体制確保のための職員研修の実績

(別紙4) 院内感染対策のための指針及び感染対策委員会開催状況

(別紙5) 医薬品の安全使用のための研修の実施状況

(別紙6) 医療機器の安全使用のための研修の実施状況

(様式第 10)

3 事務第 68 号  
令和 3 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

公立大学法人 名古屋市立大学  
理事長 郡 健二郎

名古屋市立大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
氏 名	公立大学法人 名古屋市立大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

名古屋市立大学病院
-----------

3 所在の場所

〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地	電話(052)851-5511
----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
1 呼吸器内科	<input checked="" type="checkbox"/> 2 消化器内科	<input checked="" type="checkbox"/> 3 循環器内科	<input checked="" type="checkbox"/> 4 腎臓内科
5 神経内科	6 血液内科	7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input checked="" type="checkbox"/> 11 リウマチ科	
診療実績			
・呼吸器内科およびアレルギー疾患内科は、呼吸器・アレルギー疾患内科で主に診療している。			
・血液内科は、血液・腫瘍内科で主に診療している。			
・内分泌内科および代謝内科は、内分泌・糖尿病内科で主に診療している。			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科      2消化器外科      3乳腺外科      4心臓外科 5血管外科      6心臓血管外科      7内分泌外科      8小児外科		
診療実績 ・内分泌外科については、耳鼻咽喉科および泌尿器科で主に診療している。		

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科    2小児科    3整形外科    4脳神経外科    5皮膚科    6泌尿器科    7産婦人科 8産科    9婦人科    10眼科    11耳鼻咽喉科    12放射線科    13放射線診断科 14放射線治療科    15麻酔科    16救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科    2矯正歯科    3口腔外科		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 肝臓内科      2 膵臓内科      3 呼吸器・アレルギー疾患内科      4 内分泌・糖尿病内科 5 血液・腫瘍内科    6 脳神経内科      7 形成外科    8 小児泌尿器科      9 リハビリテーション科 10 病理診断科      11 臨床検査科
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
28床	床	床	床	772床	800床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	291人	215.7人	506.7人	看 護 補 助 者	75人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	5人	11.8人	16.8人	理 学 療 法 士	17人	臨床検査技師	67人
薬 剤 師	54人	0.9人	54.9人	作 業 療 法 士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	54人	1.7人	55.7人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	871人	33.9人	904.9人	臨 床 工 学 士	17人	医療社会事業従事者	9人
准 看 護 師	0人	0.7人	0.7人	栄 養 士	0人	その他の技術員	27人
歯 科 衛 生 士	1人	1.7人	2.7人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	188人
管理栄養士	9人	6.7人	15.7人	診 療 放 射 線 技 師	47人	そ の 他 の 職 員	3人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	71人	眼 科 専 門 医	9人
外 科 専 門 医	51人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	13人
精 神 科 専 門 医	11人	放 射 線 科 専 門 医	18人
小 児 科 専 門 医	24人	脳 神 経 外 科 専 門 医	10人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整 形 外 科 専 門 医	21人
泌 尿 器 科 専 門 医	17人	麻 酔 科 専 門 医	20人
産 婦 人 科 専 門 医	17人	救 急 科 専 門 医	6人
		合 計	297人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 間瀬 光人 ) 任命年月日 令和3年4月1日

平成17年～18年	医療安全管理室副室長
平成13年5月～令和2年	医療事故防止等検討委員会 (平成27年～医療安全管理委員会) 委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	582.1人	6.0人	588.1人
1日当たり平均外来患者数	1665.1人	76.7人	1741.8人
1日当たり平均調剤数	1,329 剤		
必要医師数	156.0 人		
必要歯科医師数	5 人		
必要薬剤師数	20 人		
必要（准）看護師数	354 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	401.67㎡	S造 一部SRC/R C造	病床数	16床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	268.45m <sup>2</sup> 台	病床数	17床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	62.81m <sup>2</sup>			
化学検査室	520.90㎡	S造	(主な設備) 検体検査システム			
細菌検査室	123.15㎡	一部SRC/R	(主な設備) 微生物検査システム			
病理検査室	221.79㎡	C造	(主な設備) 病理標本染色封入システム			
病理解剖室	81.18㎡	S・SRC造	(主な設備) 解剖台、臓器撮影台、滅菌装置			
研究室	193.13㎡	S造	(主な設備) クリーンベンチ、オートクレープ滅菌装置			
講義室	401.90㎡	一部SRC/R	室数	1室	収容定員	320人
図書室	96.98㎡	C造	室数	2室	蔵書数	5,700冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	80.3%	逆紹介率	89.6%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,337人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17,781人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,591人
	D: 初診の患者の数		19,835人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中村 勝己	後藤・太田・立岡法律事務所 所属弁護士	○	法律に関する識見を有する者	有・無	1
宮本 忠壽	知多厚生病院 名誉院長		医療安全に関する業務に従事した経験を持つ医師	有・無	1
小島 一彦	名古屋学芸大学 特任教授		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有・無	2
岩崎 良平	日本ガイシ株式会社 取締役専務執行役員		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有・無	2
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 病院ホームページにて公表している <a href="https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/">https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/</a>	





## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	成人スチル病(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。難治例ではグルココルチコイド療法に加え免疫抑制薬併用下にTNF $\alpha$ やIL-6を標的とした生物学的製剤による寛解導入療法を行っている。			
医療技術名	若年性特発性関節炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。難治例では生物学的製剤による治療を行っている。			
医療技術名	強直性脊椎炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。難治例では生物学的製剤による治療を行っている。			
医療技術名	全身性エリテマトーデス(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	250人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。重症難治例では、複数の免疫抑制薬併用療法や生物学的製剤による治療を行い、寛解維持期においてグルココルチコイドにできるだけ頼らない治療を行っている。			
医療技術名	皮膚筋炎/多発性筋炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。急速進行性間質性肺炎や嚥下障害など重篤な臓器障害に対して集学的に治療を行っている。			
医療技術名	全身性強皮症(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。他診療科と連携し、間質性肺炎や強皮症腎クリーゼなど重篤な臓器障害に対して集学的に治療を行っている。			
医療技術名	混合性結合組織病(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。他診療科と連携し、肺高血圧症など重篤な臓器障害に対して集学的に治療を行っている。			
医療技術名	シェーグレン症候群(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。他診療科と連携し、疾患の診断および重症腺外病変に対する治療を行っている。			
医療技術名	IgG4関連疾患(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。他診療科と連携し、疾患の診断および治療を行っている。			
医療技術名	高安動脈炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。難治例では生物学的製剤による治療を行っている。			
医療技術名	巨細胞性動脈炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要:日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。難治例では生物学的製剤による治療を行っている。			

医療技術名	結節性多発動脈炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要: 日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。			
医療技術名	顕微鏡的多発血管炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要: 日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。重症例ではシクロホスファミドやリツキシマブ、他診療科と連携し血漿交換による治療を行っている。			
医療技術名	多発血管炎性肉芽腫症(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要: 日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。重症例ではシクロホスファミドやリツキシマブ、他診療科と連携し血漿交換による治療を行っている。			
医療技術名	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要: 日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。好酸球性炎症による難治再発例では生物学的製剤による治療を行っている。			
医療技術名	ベーチェット病(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要: 日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。他診療科と連携し、重症例には生物学的製剤による治療を行っている。			
医療技術名	悪性関節リウマチ(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要: 日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。重症例には生物学的製剤による治療を行っている。			
医療技術名	原発性抗リン脂質抗体症候群(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要: 日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。			
医療技術名	再発性多発軟骨炎(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要: 日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の診療を行っている。			
医療技術名	家族性地中海熱(指定難病)の診断・治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要: 日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の診療を行っている。			
医療技術名	関節リウマチの生物学的製剤・JAK阻害薬治療	取扱患者数	160人
当該医療技術の概要: 日本リウマチ学会指導医、専門医による当該疾患の専門的診療を行っている。治療抵抗性症例に対して生物学的製剤やJAK阻害薬を含む寛解導入療法を行っている。また多くの症例で生物学的製剤の寛解休薬など治療減弱に成功している。			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁置換術	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 高齢でfrailtyが高い、あるいは他の疾患を患っているために従来の開胸による外科的大動脈弁置換術の適応とならない患者を対象に、専用のデバイスを用いて経カテーテル的に大動脈弁置換術を行う。			
医療技術名	デバイスを用いた心臓再同期療法	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 最適な薬物治療を受けているにもかかわらず、有意な心室内伝導障害を有し、左室駆出率が低下した症候性の心不全患者で、日本循環器学会の急性・慢性心不全ガイドラインに基づいて心臓再同期療法の適応(推奨クラスI~IIb)があると判断した症例を対象に、両心室ペーシング機能を有するデバイスによる心臓再同期療法を行う。			
医療技術名	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)の治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 PCSK9阻害薬オートインジェクターによる治療			

医療技術名	造血幹細胞移植療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 自家および同種造血幹細胞移植療法は、造血器腫瘍治療において極めて重要な手段である。高度の骨髄抑制および免疫抑制に伴う合併症管理が治療成績を左右し、多臓器にわたる専門的な管理が必要であるため、チーム医療を学ぶ良い機会となる。			
医療技術名	Lドパ持続経腸療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 進行期パーキンソン病患者に対する運動症状の改善を目的に、胃瘻から小腸上部へチューブを留置し、ゲル状のLドパ製剤をポンプにて持続的に投与する治療			
医療技術名	膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 膵頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して胃のほぼ全てを温存させたくうえで、膵頭部、十二指腸、胆嚢、胆管を合併切除し、空腸を用いて再建している。			
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 良性または低悪性度膵体尾部腫瘍に対して腹腔鏡下に膵体尾部切除を行っている。			
医療技術名	膵胆管合流異常手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 膵胆管合流異常があり胆管の拡張を認める場合、胆嚢の摘出と肝外胆管の切除を行い、胆管と空腸を吻合する手術を行っている。			
医療技術名	Frey手術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 内科的治療の困難な慢性膵炎に対し、膵管内圧の上昇を防ぐ目的で、膵頭部のくり抜きと、膵管を長軸方向に開放した上で、膵管と空腸を吻合する手術を行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下肝部分切除術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 肝外側区域切除または肝部分切除を腹腔鏡下に行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下肝亜区域切除術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 肝腫瘍に対して区域範囲以上を腹腔鏡で切除している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 膵体尾部腫瘍に対してロボット支援下膵体尾部切除を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 肝腫瘍に対してロボット支援下肝切除術を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下大腸全摘術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を用いて大腸を全摘出し、肛門と回腸を吻合する。主に潰瘍性大腸炎・家族性大腸ポリポージスに対して施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下骨盤内臓全摘術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 多臓器に浸潤した直腸癌・S状結腸癌に対してロボットを用いた腹腔鏡手術で骨盤内の臓器を合併切除している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下直腸切除術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 ロボット支援下に腹腔鏡を用いて直腸切除術を施行している。			

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺合併直腸切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ロボット支援下に腹腔鏡を用いて前立腺合併直腸切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下結腸右半切除術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 ロボット支援下に腹腔鏡を用いて結腸右半切除術を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下食道アカラシア手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 アカラシア手術を腹腔鏡下にて安全に施行している。			
医療技術名	胸腔鏡下食道亜全摘出術	取扱患者数	51人
当該医療技術の概要 切除可能食道癌に対して胸腔鏡下に施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下下部食道噴門側胃切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 切除可能食道胃接合部癌に対してロボット支援手術を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下幽門側胃切除術	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 胃癌に対する幽門側切除術においてロボット支援手術で行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下噴門側胃切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 胃癌に対する噴門側切除術においてロボット支援手術で行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下胃全摘術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 胃癌に対する全摘術においてロボット支援手術で行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術及び十二指腸空腸バイパス術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 病的肥満症に対して腹腔鏡下に手術を施行している。			
医療技術名	進行肺癌、胸部悪性腫瘍に対する胸腔鏡下手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要: 気管支形成・肺動脈形成を伴う進行肺癌に対し、低侵襲胸腔鏡下手術を施行。			
医療技術名	剣状突起下アプローチによる前縦隔腫瘍摘出術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要: 前縦隔腫瘍に対し、剣状突起下アプローチ胸腔鏡下手術による摘出術を施行。胸骨を切らない低侵襲手術施行。			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要: 悪性胸膜中皮腫に対し、胸膜肺全摘術施行。			
医療技術名	気管支腫瘍・狭窄に対する気管支鏡下YAGレーザー治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要: 気管支腫瘍・術後気管支狭窄に対し、気管支鏡下にYAGレーザー治療を行い、気管支を開存。			

医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下肺葉切除術+縦隔リンパ節郭清術	取扱患者数	41人
当該医療技術の概要: Davinciを使用した肺癌に対するロボット支援下胸腔鏡下肺葉切除術			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要: Davinciを使用した縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術			
医療技術名	内視鏡下ヒルシュスプルン病修復術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要: 乳児の先天異常であるヒルシュスプルング病の内視鏡下修復術			
医療技術名	新生児先天性十二指腸閉鎖症修復術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要: 新生児の先天異常である十二指腸閉鎖症の修復術			
医療技術名	新生児会陰式鎖肛修復術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要: 新生児の先天異常である低位鎖肛に対する修復術。狭いところの大事な機能部位に対する手術。			
医療技術名	超早産・超低出生体重児に対する腹膜炎手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要: 超早産(24W)かつ超低出生体重児(328g)の消化管穿孔に対する腹膜炎手術			
医療技術名	新生児左梨状窩嚢胞摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要: 出生前から存在がわかっていた左頸部嚢胞に対する手術 大血管や反回神経に炎症性に癒着する嚢腫の摘出術			
医療技術名	新生児腸回転異常手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要: 新生児の先天異常である腸回転異常に対する手術 正常な状態にできないため、新たな腸管の納め方を必要とする。			
医療技術名	脊椎腫瘍骨全摘術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 特殊な器械を用いて展開し、脊髄を損傷することなく脊椎腫瘍骨を全摘出する国内もほとんどされていない手術			
医療技術名	自家液体窒素処理骨移植	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 液体窒素に腫瘍のある骨を浸して腫瘍細胞を凍死させ、その骨を再建に用いる方法			
医療技術名	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 外傷性膝の軟骨欠損に対する治療法			
医療技術名	精巣内精子回収法(TESE)により得られた精子を用いた顕微授精	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 精巣内から直接得られた精子を用いた顕微授精をおこなうことにより、この男性不妊症の患者が、生児を得ることが出来る。			
医療技術名	筋硬直性ジストロフィーに対する着床前診断	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 筋硬直性ジストロフィーは遺伝疾患であり、着床前診断することが出来る。			

医療技術名	染色体相互転座に起因する習慣流産患者に対する着床前胚染色体構造検査 (PGT-SR)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 均衡型染色体相互転座を有する習慣流産症例の受精卵に対し、PGT-Aを行うことで流産を予防することができる。			
医療技術名	体外受精治療反復着床不成功に対する着床前胚染色体異数性検査 (PGT-A)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 体外受精治療反復不成功例の受精卵に対し、PGT-Aを行うことで妊娠率が向上出来る。			
医療技術名	習慣流産患者の妊娠管理	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 習慣流産患者の診断、治療をおこない妊娠継続分娩管理をおこなう。			
医療技術名	重症妊娠高血圧症候群患者の管理	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 重症妊娠高血圧症候群の患者を、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をおこなう。			
医療技術名	不育症患者に対する抗凝固療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 抗リン脂質抗体症候群は不育症の原因の1つであり、抗凝固療法(ヘパリン・アスピリン)により治療する。			
医療技術名	母体血胎児染色体検査	取扱患者数	840人
当該医療技術の概要 胎児染色体数異常(21・18・13トリソミー)について母体血を用いて非確定的に診断する。			
医療技術名	前置胎盤・胎盤早期剥離などハイリスク妊婦に対する帝王切開術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 重圧な合併症を引き起こす可能性のある疾患である、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をする。			
医療技術名	妊娠中期破水妊娠の管理	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 妊娠中期の前期破水は母体のみでなく胎児にも大きな影響を与える。集約的な治療によって妊娠分娩管理をする。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下子宮全摘術	取扱患者数	34人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	腹腔鏡下仙骨腫固定術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体癌に限る)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	小児がんに対する吸収性スパーサー留置併用陽子線治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 切除不能な小児固形悪性腫瘍に対する吸収性スパーサー留置を行い、陽子線治療時の正常組織との間にマージンを確保する。スパーサーは体内で加水分解するため、抜去が不要である。(小児外科、名古屋市立大学医学部附属西部医療センターと連携して実施)			

医療技術名	脈絡膜新生血管、黄斑浮腫に対する抗VEGF硝子体内注射	取扱患者数	1624人
当該医療技術の概要 加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、および、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫に対して抗VEGF薬を硝子体内に注射して、新生血管を縮小あるいは浮腫の改善を図る。			
医療技術名	加齢黄斑変性に対する光線力学療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 光感受性物質を静脈内投与したのちに、レーザー光線をあて、加齢黄斑変性の脈絡膜新生血管を縮小させる。			
医療技術名	増殖硝子体網膜症に対する増殖硝子体網膜症手術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 難治性網膜剥離である増殖硝子体網膜症に対し、輪状締結を行い、硝子体および増殖膜を切除、ガスあるいはシリコンオイルで眼内を置換する。			
医療技術名	インプラントを用いた緑内障手術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 他の治療法で眼圧コントロール不良の緑内障患者に対して、インプラントを用いた濾過手術を施行する			
医療技術名	加齢黄斑変性に対する血栓溶解剤注入	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要 加齢黄斑変性による中心窩を含む黄斑下出血に対して(tPAクリアクター)を硝子体内に注射して、黄斑下血腫あるいはフィブリンを溶解させることで黄斑浮腫や視力の維持改善を図る。			
医療技術名	糖尿病黄斑浮腫に対する選択的網膜光凝固	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 当該医療技術の概要 糖尿病黄斑浮腫にたいして、インドシアニングリーン蛍光眼底造影を施行し、原因となる毛細血管瘤を自動追尾装置をもったレーザーの機械で選択的に光凝固する			
医療技術名	人工内耳埋め込み術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 高度難聴患者に対して人工内耳埋め込み術を施行、その後の聴覚リハビリを行っている。			
医療技術名	膿疱性乾癬(指定難病)の治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要:皮膚科専門医による膿疱性乾癬の専門的治療を行っている。			
医療技術名	天疱瘡(指定難病)の治療	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要:皮膚科専門医による天疱瘡の専門的治療を行っている。			
医療技術名	表皮水疱症(指定難病)の治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要:皮膚科専門医による表皮水疱症の専門的治療を行っている。			
医療技術名	顕微鏡下精子採取術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 男性不妊症に対する補助生殖医療技術。産婦人科と協調しながら顕微鏡下に精子採取術を行っている。 東海地区の大学病院では唯一当院でしか経験できないため、特殊な手術の経験となっている。			
医療技術名	MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	取扱患者数	113人
当該医療技術の概要 先進医療として厚生労働省が認めた高度な検査である。			
医療技術名	腹腔鏡下逆流防止術	取扱患者数	10人
先天性疾患である膀胱尿管逆流に対し、膀胱外アプローチで行う腹腔鏡手術である。先進医療Aとして厚生労働省が認めた高度な手術であり、全国でも数施設でしか行われていない高度な技術を必要とする手術である。			

医療技術名	腹腔鏡内精巣に対する腹腔鏡下精巣固定術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 小児に対するより低侵襲な手術として腹腔鏡を全国に先駆けて取り入れ行っている。腹腔内からの精巣の観察ができ、開腹による手術の時の理解にもつながっている。			
医療技術名	膀胱尿管逆流に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	取扱患者数	0人
先天性疾患である膀胱尿管逆流に対し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。医師主導の臨床試験として院内の倫理審査委員会での承認のもとに施行している。従来の腹腔鏡手術に比べ、高精細な視野、自由度の高い鉗子を用い、手術成績の向上が期待される。本年度は施行症例はなかったが、継続していきたい。			
医療技術名	先天性水腎症に対するロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	11人
先天性疾患である水腎症に対し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。2020年4月から保険収載となった。従来の腹腔鏡手術に比べ、高精細な視野、自由度の高い鉗子を用い、手術成績の向上が期待される。			
医療技術名	高難度の泌尿生殖器の先天異常に対する手術治療	取扱患者数	2人
泌尿生殖器および下部消化管の複雑な先天異常疾患である、総排泄腔遺残(指定難病293)や膀胱外反症。総排泄腔外反(指定難病292)は、発生頻度が10-20万人に1人と希少疾患である。治療には尿路・生殖器・消化器など広い範囲で高難度の手術治療が必要となる。複数の関連各科と合同し手術治療を行い、安全に施行できている。			
医療技術名	尿道下裂に対する手術治療	取扱患者数	21人
尿道下裂は250-300人に1人と比較的頻度の高い陰茎の先天異常である。軽度のものから性分化疾患を合併する非常に高度な症例まで幅ひろく存在し、当院へは高度の症例が多く紹介され、手術治療を行っている。当科で開発した手術方法を用いて、良好で安全な治療成績を得ている。			
医療技術名	抑うつ障害群に対する対人関係療法	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 抑うつ障害群の患者に対して、現在の対人関係における感情や役割期待を扱いながら、症状と関連する問題領域に取り組むことで症状軽減を図る。			
医療技術名	慢性めまいに対する新世代認知行動療法(アクセプタンス&コミットメント・セラピー)	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 慢性めまい(心因性めまい)の患者に対して、アクセプタンス、観察者としての自己、脱フュージョン、現在との接触、価値、コミットされた行為、というアクセプタンス&コミットメント・セラピーのコアプロセスを体験的に習得してもらい、心理的柔軟性を高めることで、QOLの向上を目指し、結果として慢性めまい症状の低減を図る。			
医療技術名	児童外来	取扱患者数	1440人
当該医療技術の概要 児童・思春期に特有な疾患について個人精神療法を中心を行う。			
医療技術名	サイコオンコロジー	取扱患者数	600人
当該医療技術の概要 がん患者とその家族に対して、支持的精神療法を基本としつつ、がんという疾患の特性を良く理解し、患者の苦痛を包括的に評価し、多職種と協働しながら精神心理的支援を提供する。			
医療技術名	難治性てんかんの診断と治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 難治性てんかんの診断精査として、入院で終夜脳波などの発作時ビデオ脳波同時記録を行っている。治療として、入院・外来で抗てんかん薬による薬物療法および迷走神経刺激療法(VNS)を行っている。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 これまでに数種類の抗うつ薬を十分量、十分期間服用しても改善の得られない難治性うつ病や、副作用のために薬物治療を行えない治療抵抗性うつ病、高齢者のうつ病に対しては、修正型電気けいれん療法(週2回ずつ約10回を1クールとして施行)を麻酔科の協力を得て行う。			
医療技術名	神経性やせ症の低体重に対する入院治療プログラム	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 低体重で入院を要する神経性やせ症患者に対して、精神科病棟で身体的な安全を確保しながら栄養療法を実施するものである。体重を増加させるだけでなく、治療全体の中で家族とともに心理的な回復も目指しながら評価・対応を行う。			
医療技術名	脊髄刺激装置埋め込み術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 慢性疼痛患者の疼痛緩和のため脊髄硬膜外腔に電極を留置し、電気刺激により疼痛のコントロールをはかる			

医療技術名	ECMOによるCovid19患者の管理	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 呼吸機能が悪化したCovid19肺炎患者に対する人工肺を用いた管理			
医療技術名	多血小板フィブリン(PRF:Platelet Rich Fibrin)を用いた歯槽骨造成	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要:インプラント治療の際の骨再生誘導法に使用する骨補填材に骨造成促進を目的に自己血から作成したPRFを混和する。			
医療技術名	ラヌーラに対する低侵襲療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要:ラヌーラには一般的に舌下腺摘出や開窓術が実施されるが、微小な穿刺創から内容液を吸引し、洗浄を繰り返しながら、創部にステロイド外用薬を塗布して肉芽形成を抑制し、最終的に嚢胞腔を閉鎖させて治癒を得る新規技術となる			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	102
2	筋萎縮性側索硬化症	6	57	特発性拡張型心筋症	124
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	127
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	12	60	再生不良性貧血	47
6	パーキンソン病	396	61	自己免疫性溶血性貧血	71
7	大脳皮質基底核変性症	2	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	143
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	7
10	シャルコー・マリー・トゥース病	7	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	133	66	IgA 腎症	107
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	28
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	56	68	黄色靱帯骨化症	45
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	29	69	後縦靱帯骨化症	113
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロー・深瀨症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	46
17	多系統萎縮症	8	72	下垂体性ADH分泌異常症	19
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	37	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	19
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	37	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	3
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	101
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	51
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	4	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	2
28	全身性アミロイドーシス	18	83	アジソン病	6
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	308
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	26
31	ベスレムミオパチー	2	86	肺動脈性肺高血圧症	104
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	39	89	リンパ管筋腫症	3
35	天疱瘡	82	90	網膜色素変性症	0
36	表皮水疱症	5	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	57	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎	28
39	中毒性表皮壊死症	3	94	原発性硬化性胆管炎	20
40	高安動脈炎	13	95	自己免疫性肝炎	160
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	126
42	結節性多発動脈炎	19	97	潰瘍性大腸炎	370
43	顕微鏡的多発血管炎	46	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	96	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	32	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	8	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	39	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	466	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	202	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	89	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	71	107	若年性特発性関節炎	13
53	シェーグレン症候群	513	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	31	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	9	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	62	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	22	167	マルファン症候群	11
118	脊髄髄膜瘤	29	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	3	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジドリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	3
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	1
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	4	179	ウィリアムズ症候群	5
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	1
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	2	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	3
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	2
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	2
140	ドラベ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	1	192	コケイン症候群	2
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	11
144	レノックス・ガストー症候群	6	194	ソトス症候群	2
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	11
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	27	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイノミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	18
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	1
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	3
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	1
155	ランドウ・クレフナー症候群	1	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	4	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	2	207	総動脈幹遺残症	1
158	結節性硬化症	12	208	修正大血管転位症	12
159	色素性乾皮症	3	209	完全大血管転位症	18
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	26

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	4	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	8	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	5	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	6	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	43	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	32	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	2	266	家族性地中海熱	14
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	1
220	急速進行性糸球体腎炎	194	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	7	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	13
222	一次性ネフローゼ症候群	1	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	23
224	紫斑病性腎炎	6	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	2
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	7
227	オスラー病	15	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	3	276	軟骨無形成症	3
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	7	277	リンパ管腫症/ゴーム病	1
230	肺胞低換気症候群	12	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	101	283	後天性赤芽球癆	4
236	偽性副甲状腺機能低下症	6	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	26	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	10
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	1
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	2
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	7
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	6
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	2	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	52
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	4
254	ポルフィリン症	2	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	1
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	3
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	15

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	2	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	326	大理石骨病	1
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	6	329	無虹彩症	2
316	カルニチン回路異常症	2	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	7
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	0
318	シトリン欠損症	7	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神10:1)	・入退院支援加算1
・救急医療管理加算	・入退院支援加算3
・超急性期脳卒中加算	・認知症ケア加算1
・診療録管理体制加算2	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・医師事務作業補助体制加算1	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算	・精神科急性期医師配置加算
・看護職員夜間配置加算	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・救命救急入院料1
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料3
・無菌治療室管理加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・無菌治療室管理加算2	・新生児治療回復室入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・後発医薬品使用体制加算1	

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	緑内障手術〔緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)〕
外来栄養食事指導料の注2	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
心臓ペースメーカー指導管理料の「注5」に掲げる遠隔モニタリング加算	網膜再建術
糖尿病合併症管理料	人工中耳植込術
がん性疼痛緩和指導管理料	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん患者指導管理料イ	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
がん患者指導管理料ロ	喉頭形成術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
がん患者指導管理料ハ	乳がんセンチネルリンパ節加算1
がん患者指導管理料ニ	センチネルリンパ節生検(併用)
外来緩和ケア管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	センチネルリンパ節生検(単独)
糖尿病透析予防指導管理料	乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
婦人科特定疾患治療管理料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術
腎代替療法指導管理料	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
院内トリアージ実施料	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
外来放射線照射診療料	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ニコチン依存症管理料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
がん治療連携計画策定料	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る)
肝炎インターフェロン治療計画料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ハイリスク妊産婦連携指導料1	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
ハイリスク妊産婦連携指導料2	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
薬剤管理指導料	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
医療機器安全管理料1	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
医療機器安全管理料2	胸腔鏡下弁形成術
精神科退院時共同指導料2	経カテーテル的大動脈弁置換術
遠隔モニタリング加算(在宅酸素療法指導管理料)	胸腔鏡下弁置換術
遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)	経皮的中隔心筋焼灼術
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
皮下連続式グルコース測定	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)

施設基準の種類	施設基準の種類
遺伝学的検査	植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極拔去術
有床義歯咀嚼能力検査	両室ペースティング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペースティング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
精密触覚機能検査	両室ペースティング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペースティング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
骨髄微小残存病変量測定	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
BRACA1/2 遺伝子検査	経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
がんゲノムプロファイリング検査	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
先天性代謝異常症検査	腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ測定）	腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
検体検査管理加算（I）	腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
検体検査管理加算（IV）	腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
国際標準検査管理加算	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
遺伝カウンセリング加算	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る）
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	体外衝撃波胆石破砕術
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	腹腔鏡下肝切除術
胎児心エコー法	体外衝撃波膵石破砕術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
ヘッドアップティルト試験	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
人工膵臓検査及び人工膵臓療法	腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
長期継続頭蓋内脳波検査	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
脳波検査判断料1	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
終夜睡眠ポリグラフィー（安全精度管理下で行うもの）	腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）
神経学的検査	腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
補聴器適合検査	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
ロービジョン検査判断料	腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
コンタクトレンズ検査料1	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
内服・点滴誘発試験	膀胱水圧拡張術
CT透視下気管支鏡検査加算	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
経気管支凍結生検法	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
画像診断管理加算3	人工尿道括約筋植込・置換術
CT撮影及びMRI撮影	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
冠動脈CT撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
血流予備量比コンピューター断層撮影	腹腔鏡下仙骨陰固定術
心臓MRI撮影加算	腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
乳房MRI撮影加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
全身MRI撮影加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸癌に限る）

施設基準の種類	施設基準の種類
外来化学療法加算1	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
連携充実加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
無菌製剤処理科	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に限る。）
心大血管疾患リハビリテーション料（I）	輸血管理料 I
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）	輸血適正使用加算
運動器リハビリテーション料（I）	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
呼吸器リハビリテーション料（I）	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
がん患者リハビリテーション料	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
リンパ浮腫複合的治療料	麻酔管理料 I
歯科口腔リハビリテーション料2	麻酔管理料 II
児童思春期精神科専門管理加算	放射線治療専任加算
認知療法・認知行動療法1	外来放射線治療加算
抗精神病特定薬剤治療管理料 （治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る）	高エネルギー放射線療法
医療保護入院等診療料	1回線量増加加算
エタノール局所注入（甲状腺）	強度変調放射線治療（IMRT）
エタノール局所注入（副甲状腺）	画像誘導放射線治療（IGRT）
人工腎臓	体外照射呼吸性移動対策加算
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	定位放射線治療
透析液水質確保加算	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
CAD/CAM冠	保険医療機関間の連携による病理診断
歯科技工加算	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作成
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速細胞診
四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理	病理診断管理加算2
組織拡張器による再建手術〔乳房（再建手術）の場合に限る〕	悪性腫瘍病理組織標本加算
骨移植術（軟骨移植術を含む）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る））	クラウン・ブリッジ維持管理料
骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る）	不整脈手術 左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）
後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）	定位放射線治療呼吸性移動対策加算動体追尾法
椎間板内酵素注入療法	腹腔鏡下仙骨陰固定術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	
脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）又は脳刺激装置交換術	
脊髄刺激装置植込術又は脊髄刺激装置交換術	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(切除が困難で進行性のもの又は治療後に再発したものであって、原発部位が不明なもの又は治療法が存在しないもの、従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)(令和元年度6月保険収載)	・硬膜外自家血注入療法 (平成28年度診療報酬改定)
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定(平成30年度診療報酬改定)	・内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下腎部分切除術 (平成28年度診療報酬改定)
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月2回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 16例 / 剖検率 3.7 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
HBV遺伝子のヒト遺伝子への組み込みに対する統合的遺伝子解析から肝発癌を予測する	藤原 圭	肝・膵臓内科	¥1,170,000	補	文部科学省
				委	
肝線維化の新規診断・治療法の確立を目指したlet-7の発現・機能解析	松浦 健太郎	肝・膵臓内科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
microRNAを用いた新規の肝線維化診断法の確立と肝線維化治療法の開発	松浦 健太郎	肝・膵臓内科	¥1,200,000	補	文部科学省
				委	
C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究開発 代表:竹原徹郎(大阪大学消化器内科学)	松浦 健太郎	肝・膵臓内科	¥900,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
胆汁を用いたリキッドバイオプシー研究;エクソソーム解析による胆道疾患の新規解明	吉田 道弘	肝・膵臓内科	¥1,200,000	補	文部科学省
				委	
膵癌の予後不良因子であるRONを介する新たな治療戦略の研究	加藤 晃久	肝膵内科	¥500,000	補	日本膵臓研究財団
				委	
治療抵抗性慢性咳嗽の制御へ向けて:バイオマーカーを用いた病態多様性へのアプローチ	新實 彰男	呼吸器内科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
癌治療標的ならびに治療効果予測マーカーとしてのアミノ酸トランスポーターの意義	小栗 鉄也	呼吸器内科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
小細胞肺癌における抗癌剤耐性の克服を目指したネスチンを基軸とする診療戦略の開発	前野 健	呼吸器内科	¥800,000	補	文部科学省
				委	

小計9件

吸入指導マイスター導入による吸入治療アドヒアランス向上の可能性-多施設前向き試験	竹村 昌也	呼吸器内科	¥600,000	補	文部科学省
				委	
難治性喘息の新規バイオマーカーとしてのカプサイシン咳感受性の意義	金光 禎寛	呼吸器内科	¥1,300,000	補	文部科学省
				委	
カプサイシン咳感受性を基軸としたCOPD患者の入院加療に関わるリスク因子の検討	福光 研介	呼吸器内科	¥200,000	補	文部科学省
				委	
iNOS遺伝子の発現を基軸とした喘息における末梢気道炎症の解明	西山 裕乃	呼吸器内科	¥900,000	補	文部科学省
				委	
左室駆出率40-60%の心不全に対するβ遮断薬、RAS阻害薬の有用性の検討	大手 信之	循環器内科	¥1,300,000	補	文部科学省
				委	
健常人で検出される心筋トロポニンBの意義解明とその調節因子探索のための多角的な研究	杉浦 知範	循環器内科	¥1,300,000	補	文部科学省
				委	
PETを用いた変時性不全における心臓交感神経pre-synapse機能の研究	後藤 利彦	循環器内科	¥910,000	補	文部科学省
				委	
心房細動に対するカテーテル治療後の洞調律維持・心機能改善に寄与する因子の検討	北田 修一	循環器内科	¥1,950,000	補	文部科学省
				委	
左室駆出率の保たれた心不全における、心臓交感神経活性のPETによる画像解析	菊池 祥平	循環器内科	¥1,170,000	補	文部科学省
				委	
拡張型心筋症における心筋内への各炎症細胞浸潤の臨床的、病理学的意義の解明	中山 貴文	循環器内科	¥780,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

心臓サルコイドーシスの非侵襲的早期診断—心臓電気生理と炎症サイトカインの関連	中須賀 公亮	循環器内科	¥1,820,000	補	文部科学省
				委	
重症心不全における心臓再同期療法の三次元マッピング法を用いた最適化についての検討	森 賢人	循環器内科	¥1,040,000	補	文部科学省
				委	
アミロイドーシスに関する調査研究	飯田 真介	血液・腫瘍内科学分野	¥400,000	補	厚生労働省
				委	
造血器腫瘍における遺伝子パネル検査の提供体制構築およびガイドライン作成	飯田 真介	血液・腫瘍内科学分野	¥500,000	補	厚生労働省
				委	
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	飯田 真介	血液・腫瘍内科学分野	¥2,000,000	補	国立がん研究センター
				委	
リキッドバイオプシーを用いた多発性骨髄腫の病態予測ゲノムバイオマーカーの探索研究	飯田 真介	血液・腫瘍内科	¥1,100,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
がん化学療法後のB型肝炎ウイルス再活性化後の核酸アナログ中止基準の確立	楠本 茂	血液・腫瘍内科	¥1,100,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
Interim PETに基づく初発進行期ホジキンリンパ腫に対するABVD療法およびABVD/増量BEACOPP療法の非ランダム化検証的試験(JCOG1305)	楠本 茂	血液・腫瘍内科学分野	¥1,000,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
B型肝炎再活性化の発生機序の解明と費用対効果に優れた予防法の開発	楠本 茂	血液・腫瘍内科学分野	¥12,610,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
血清オミックス解析を中心とした多発性骨髄腫の治療薬レナリドミドの感受性因子の探索	李 政樹	血液・腫瘍内科	¥800,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	

小計10件

造血器腫瘍における遺伝子パネル検査の提供体制構築およびガイドライン作成	李 政樹	血液・腫瘍内科学分野	¥500,000	補	厚生労働省
				委	
血清中cell free DNAを用いた悪性リンパ腫の中脳神経再発リスクの研究	鈴木 智貴	血液・腫瘍内科	¥1,200,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
予後不良多発性骨髄腫における悪性獲得機序と新規治療開発:ARK5に注目して	木下 史緒理	血液・腫瘍内科	¥1,700,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
成人T細胞白血病/リンパ腫を対象としたTCR遺伝子導入リンパ球療法の確立	正木 彩子	血液・腫瘍内科	¥1,404,144	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
がん化学療法時の高尿酸血症に関する新提案-細胞死メカニズムに基づく尿酸放出量測定	大岩 加奈	血液・腫瘍内科	¥1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
認知予備能メカニズムの解明に向けた、コリン作動性神経の新たな観点からの解析	水野 将行	脳神経内科	¥2,300,000	補	文部科学省
				委	
レム睡眠行動異常症の軽度運動機能障害に着目した神経変性疾患の早期診断法開発	山田 剛平	脳神経内科	¥4,290,000	補	文部科学省
				委	
パーキンソン病に伴う認知機能障害の早期診断法の開発:ボクセルベースQSM解析	打田 佑人	脳神経内科	¥3,900,000	補	文部科学省
				委	
脳虚血後の内在性神経幹細胞分化誘導〜がん抑制因子RKIPを介して	豊田 剛成	脳神経内科	¥3,380,000	補	文部科学省
				委	
細胞外マトリックス制御による脳梗塞後の内在性神経再生能の促進	藤岡 哲平	脳神経内科	¥2,210,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

新規アルツハイマー病創薬に向けたHCNP受容体単離	松川 則之	脳神経内科	¥1,200,000	補	文部科学省
				委	
アミロイド仮説とコリン仮説の関連からアルツハイマー病病態を紐解く	松川 則之	脳神経内科	¥300,000	補	日本血液製剤機構
				委	
臨床応用を目指した放射線耐性膵癌におけるCXCR4の機能解析	今藤 裕之	消化器外科	¥1,000,000	補	大阪難病研究財団
				委	
東洋医学と西洋医学の融合を目指した、生薬「生姜」由来 zerumbone (ZB) の抗腫瘍血管新生効果の検討	松尾 洋一	消化器外科	¥800,000	補	公益財団法人東洋医学研究財団
				委	
膵癌における新規分子標的薬の開発を目指した、化学放射線耐性メカニズムの解明	松尾 洋一	消化器外科	¥17,290,000	補	科学振興財団
				委	
大腸癌のFTDに対するDNA損傷応答の解明と治療効果増強への展開	廣川 高久	消化器・一般外科	¥1,100,000	補	文部科学省
				委	
癌間質細胞由来MCP-1による抗血管新生阻害剤耐性獲得の打破	原 賢康	消化器・一般外科	¥1,300,000	補	文部科学省
				委	
TIMPを介した癌関連線維芽細胞による大腸癌進展調節機構の解明と臨床応用	仲井 希	消化器・一般外科	¥1,400,000	補	文部科学省
				委	
大腸癌における癌周囲微小環境に着目した薬剤耐性機構の解明と治療への応用	志賀 一慶	消化器・一般外科	¥1,200,000	補	文部科学省
				委	
食道癌の浸潤におけるNOTCH1シグナルの解析	大久保 友貴	消化器・一般外科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

インフラマソーム機構に関連した胃癌における血行性転移制御の解明と新規治療薬の開発	佐川 弘之	消化器・一般外科	¥1,400,000	補	文部科学省
				委	
手術支援ロボットにおける運動力学評価を用いた技術評価とトレーニング法の開発	伊藤 直	消化器・一般外科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
人工知能とテキストマイニングを用いた肥満手術の新しい適応基準の確立に向けた研究	田中 達也	消化器・一般外科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
肥満予防に向けた胃に発現するTRPチャンネルと食欲との関連解析	早川 俊輔	消化器・一般外科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
食道癌におけるWNTシグナルベータカテニンを介さないTCF活性のメカニズム	大久保 友貴	消化器・一般外科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
微量なEGFR T790M遺伝子変異肺癌の臨床的意義の解明と新たな検出手法の確立	立松 勉	呼吸器外科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
胸腺癌における免疫療法の治療効果予測新規マーカー探索と網羅的遺伝子解析	坂根 理司	呼吸器外科	¥1,800,000	補	文部科学省
				委	
神経芽腫におけるアダプター蛋白質ShfとTrkBとの機能相関解析および臨床応用	高木 大輔	小児外科	¥1,200,000	補	文部科学省
				委	
凍結権益療法を用いた転移性骨腫瘍の治療戦略	村上 英樹	整形外科	¥4,550,000	補	文部科学省
				委	
肩関節脱臼における肩関節包の解剖学的修復の検討	武長 徹也	整形外科	¥4,160,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

転移性骨腫瘍に対する凍結免疫と免疫チェックポイント阻害薬による治療法の開発	相羽 久輝	整形外科	¥4,160,000	補	文部科学省
				委	
転写因子を標的としたグリオスタチン制御により新規関節リウマチ治療を開発する	永谷 祐子	整形外科	¥4,290,000	補	文部科学省
				委	
びまん型腱滑膜巨細胞腫(色素性絨毛結節性滑膜炎)及び根治切除不能な限局型腱滑膜巨細胞腫(腱鞘巨細胞腫)患者に対するザルトプロフェンのプラセボ対照ランダム化二重盲検比較試験(多施設共同医師主導治験)	相羽 久輝	整形外科	¥500,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
				委	
新生児白質障害モデルへの細胞移植におけるIGF-2を用いた新規治療法の開発	小川 紫野	産科婦人科	¥900,000	補	文部科学省
				委	
胎児染色体数的異常に起因する不育症の関連遺伝子の解析とリスク評価の開発	吉原紘行	産科婦人科	¥1,050,000	補	文部科学省
				委	
人工知能を用いたタイムラプスイメージングの解析による非侵襲的な胚選択法の確立	澤田 祐季	産婦人科	¥300,000	補	公益財団法人杉山記念財団
				委	
人工知能を用いたタイムラプスイメージングの解析による非侵襲的な胚選択法の確立	澤田 祐季	産婦人科	¥1,400,000	補	文部科学省
				委	
慢性子宮内膜炎は不育症病態に関与するか? 脱落膜免疫組織染色と菌叢解析を用いた検討	北折 珠央	産婦人科	¥3,770,000	補	文部科学省
				委	
エンドソームリサイクル病の提案: エンドソームリサイクルの破綻による疾患発症機構	齋藤 伸治	小児科	¥6,500,000	補	文部科学省
				委	
脳オルガノイドを用いた巨脳症発症メカニズムの解明	齋藤 伸治	小児科	¥5,720,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

先天異常症候群のライフステージ全体の自然歴と合併症の把握: Reverse phenotypingを包含したアプローチ	齋藤 伸治	小児科	¥950,000	補	厚生労働省
				委	
真に個別患者の診療に役立つ領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの創成	齋藤 伸治	小児科	¥800,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
				委	
精緻エピゲノム解析技術開発とIRUD未解明症例への応用	齋藤 伸治	小児科	¥2,500,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
				委	
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)): 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	齋藤 伸治	小児科	¥4,000,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
				委	
新生児集中治療室における精緻・迅速な遺伝子診断に関する研究開発	齋藤伸治	小児科	¥1,600,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
				委	
小児科分野に関する学術研究動向-小児科学と遺伝学を中心とした基礎科学との境界領域における新たな展開-	齋藤 伸治	小児科	¥1,200,000	補	日本学術振興会
				委	
Schaaf-Yang症候群の診断基準策定と疫学に関する研究	齋藤 伸治	小児科	¥1,900,000	補	厚生労働省
				委	
母親の録音言語は早産児の言語発達を改善させるか？	岩田 欧介	小児科	¥11,600,000	補	文部科学省
				委	
新生児低酸素性虚血性脳症の生物学的マーカーの臨床応用に向けた研究	岩田 欧介	小児科	¥300,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
				委	
新生児・乳児におけるシート型生体センサーを用いた行動期評価に関する研究新生児の痛み・ストレス定量化	岩田 欧介	小児科	¥977,500	補	国立大学法人九州大学
				委	

小計10件

小児期発症の神経筋疾患における心拍変動解析を用いた予後指標の作成	服部 文子	小児科	¥1,293,404	補	文部科学省
				委	
前駆タンパク質転換酵素に着目した未熟児慢性肺疾患の病因解析と治療法の開発	加藤 晋	小児科	¥896,541	補	文部科学省
				委	
視床下部一下垂体一副腎系の成熟特性から探る発育遅延児の疾病と認知障害の同時予防策	岩田 幸子	小児科	¥2,514,037	補	文部科学省
				委	
Late preterm児の周産期ストレスに対する脳循環制御の解明	津田 兼之介	小児科	¥2,153,587	補	文部科学省
				委	
キメラマウスモデルを用いたHBV水平感染経路の解明	伊藤 孝一	小児科	¥2,400,140	補	文部科学省
				委	
蛋白輸送障害に着目したSchaaf-Yang症候群の分子機構の解明と治療法開発	堀 いくみ	小児科	¥1,100,344	補	文部科学省
				委	
発達障害児の内因性カンナビノイド系プロファイルと臨床表現型の解析	大橋 圭	小児科	¥1,455,550	補	文部科学省
				委	
ろ紙血を用いた新生児腎不全スクリーニング	中野 優	小児科	¥2,408,667	補	文部科学省
				委	
早産児脳障害の包括的病態解明と神経再生促進技術の開発	川瀬 恒哉	小児科	¥3,200,000	補	文部科学省
				委	
エンドソームリサイクル機能障害が引き起こす疾患の全体像の解明	加藤 耕治	小児科	¥3,300,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

甲状腺におけるヨード動態の解明とSLC26A7遺伝子異常の診療戦略の確立	青山 幸平	小児科	¥3,200,000	補	文部科学省
				委	
レプチンに注目した肥満によるアトピー型喘息発症の免疫機序の解明	野村 孝泰	小児科	¥3,200,000	補	文部科学省
				委	
家族性肝内胆汁うっ滞症の診断率向上、発症早期の臨床病型・予後予測の実現に資するエビデンスの創出研究	戸川 貴夫	小児科	¥1,000,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
進行性家族性肝内胆汁うっ滞症1型の病態分子基盤の解明に基づく治療戦略の創出	戸川貴夫	小児科	¥240,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
新生児の肺障害を修復する多能性幹細胞(Muse細胞)を用いた再生治療の開発	加藤 晋	小児科	¥2,000,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
網膜色素変性を対象とした軽皮膚電気刺激の有効性及び安全性に関する検証的試験(第Ⅲ相試験)	小椋 祐一郎	眼科	¥765,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
糖尿病網膜症における線維血管増殖膜の形成機構の解明	小椋 祐一郎	眼科	¥3,380,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
ガス封入中空デバイスによる抗体医療の眼内徐放システムの開発	安川 力	眼科	¥1,690,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
眼底自発蛍光を用いたレーザー光凝固の癒痕形成過程を指標とした効果判定基準の確立	野崎 実穂	眼科	¥1,560,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
加齢黄斑変性における脈絡膜新生血管発生と網膜細胞障害の機序解明と臨床への応用	平野 佳男	眼科	¥1,560,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	

小計10件

ケモカイン受容体を標的とした萎縮型加齢黄斑変性制御機構の解明と新規治療法の開発	平原 修一郎	眼科	¥1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
インプラントデバイスを使用した新しい眼内薬物徐放システムの開発	高瀬 範明	眼科	¥910,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫におけるアンジオポエチンの関与解明と臨床への応用	鈴木 識裕	眼科	¥1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
網脈絡膜の加齢による変化:加齢黄斑変性とアルツハイマー病の関連性の検討	桑山 創一郎	眼科	¥1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
ペリサイト消失網膜症モデルマウスを用いた網膜線維化のメカニズム解析	井上 奈緒美	眼科	¥1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
糖尿病網膜症における新規治療標的の提唱	小椋 俊太郎	眼科	¥1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
				委	
内耳障害の病態形成におけるネクロトーシスの役割の解明と治療への応用	岩崎 真一	耳鼻いんこう科	¥1,300,000	補	文部科学省
				委	
重度のふらつきを有する難治性前庭障害患者における経皮的ノイズ前庭電気刺激によるバランス改善効果と安全性を検証するための医師主導治験の実施	岩崎 真一	耳鼻いんこう科	¥2,177,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
カルシウム感知受容体による新たな内耳カルシウム調節機構の解明とその応用	稲垣 彰	耳鼻いんこう科	¥1,690,000	補	文部科学省
				委	
ラビットを用いた痙攣性発声障害モデルに対する外科治療の有効性と機序の検討	讃岐 徹治	耳鼻いんこう科	¥1,040,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

次世代AI技術を用いた音声障害診断システム開発	讃岐 徹治	耳鼻いんこう科	¥12,520,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
痙攣性発声障害疾患レジストリを利用した診断基準及び重症度分類の妥当性評価と改訂に関する研究	讃岐 徹治	耳鼻いんこう科	¥8,550,000	補	厚生労働省
				委	
痙攣性発声障害レジストリを活用した診断基準及び重症度分類のバリデーション評価研究	讃岐 徹治	耳鼻いんこう科	¥11,115,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
新規予後予測モデルの構築を目指した頭頸部がんにおける生活習慣の予後への影響	川北 大介	耳鼻いんこう科	¥1,560,000	補	文部科学省
				委	
口腔扁平上皮癌の三次元培養モデルでの空気曝露レベルによる低酸素誘導因子の発現解析	佐藤 慎太郎	耳鼻いんこう科	¥910,000	補	文部科学省
				委	
個別化医療に向けた腫瘍溶解ウイルス療法の開発	江崎 伸一	耳鼻いんこう科	¥5,720,000	補	文部科学省
				委	
高齢者慢性めまいに対する認知行動療法を組み合わせたハイブリッド前庭リハビリの開発	蒲谷 嘉代子	耳鼻いんこう科	¥1,950,000	補	文部科学省
				委	
頭頸部癌における制御性T細胞の徹底解明 —新たな治療ターゲット探索への挑戦—	的場 拓磨	耳鼻いんこう科	¥1,950,000	補	文部科学省
				委	
内耳カルシウム制御に関する新たな分子機構の解明	南方 寿哉	耳鼻いんこう科	¥1,820,000	補	文部科学省
				委	
両側反回神経麻痺に対する新規治療戦略	竹本 直樹	耳鼻いんこう科	¥2,340,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

フォトフォレーシスによる 制御性T細胞の誘導	森田 明理	皮膚科	¥1,200,000	補	文部科学 省
				委	
紫外線照射による制御性 T細胞の誘導と解析—皮膚 病変のリキッドバイオプ シーの開発	森田 明理	皮膚科	¥8,000,000	補	文部科学 省
				委	
光線治療における乾癬患 者末梢血のILC2とILC3の バランスの検討	西田 絵美	皮膚科	¥1,100,000	補	文部科学 省
				委	
新たな治療法の開発に向 けた日光角化症における 日光変性の表皮への作用 機序の解明	加藤 裕史	皮膚科	¥1,500,000	補	文部科学 省
				委	
芳香族炭化水素受容体 によるFICZ代謝を介した UVA防御と皮膚癌発生の メカニズム	中村 元樹	皮膚科	¥2,500,000	補	文部科学 省
				委	
UVAによるキヌレニンを介 した芳香族炭化水素受容 体活性	佐川 容子	皮膚科	¥1,300,000	補	文部科学 省
				委	
大気汚染による芳香族炭 化水素受容体を介した好 中球エラスターゼの活性と しわの形成	中村 令子	皮膚科	¥1,300,000	補	文部科学 省
				委	
アトピー性皮膚炎におけ るAKR1C3遺伝子変異・多 型の解析	中田 礼	皮膚科	¥1,800,000	補	文部科学 省
				委	
乾癬により肝硬変を発症 する免疫学的機序の検討 と肝硬変治療への応用	井汲 今日子	皮膚科	¥1,300,000	補	文部科学 省
				委	
有棘細胞癌の予後と免疫 学的因子についての次世 代シーケンサーを用いた 解析	西原 春奈	皮膚科	¥1,500,000	補	文部科学 省
				委	

小計10件

次世代ゲノミクス研究による乾癬の疾患病態解明・個別化医療・創薬	森田 明理	皮膚科	¥2,500,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
がん細胞および免疫応答解析に基づくがん免疫療法効果予測診断法の確立	森田 明理	皮膚科	¥700,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
基底細胞癌に対する6-formylindolo[3.2-b]carbazole (FICZ)とLED光源を用いた高選択的光線力学療法の開発	中村 元樹	皮膚科	¥1,352,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
時期特異的な精子幹細胞の分化過程の包括的解析と生殖医療への新規治療戦略	水野 健太郎	泌尿器科	¥13,800,000	補	文部科学省
				委	
分子生物学・鉱物学・隕石学の融合による尿路結石の形成機序解明と新規予防法の創設	田口 和己	泌尿器科	¥4,900,000	補	文部科学省
				委	
尿路結石マトリックス蛋白オステオポンチンを標的としたマクロファージ貪食機序の解明	岡田 淳志	泌尿器科	¥3,400,000	補	文部科学省
				委	
尿路結石の新規予防法開発を目指したインスリン抵抗性改善に関わる生活習慣の同定	安藤 亮介	泌尿器科	¥2,700,000	補	文部科学省
				委	
エピゲノム酵素LSD1の新規阻害剤による骨転移の難治性疼痛に対する新規治療開発	恵谷 俊紀	泌尿器科	¥3,300,000	補	文部科学省
				委	
男性不妊症における精巣炎症プロファイリングとそれに基づく新規治療の開発	岩月 正一郎	泌尿器科	¥3,400,000	補	文部科学省
				委	
1細胞RNAsequenceによる血液精巣関門の成立の解明と男性不妊治療への応用	加藤 大貴	泌尿器科	¥3,000,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

前立腺癌に対する温熱・光線力学・化学療法の時同時治療を可能とする磁性ナノ粒子の開発	永井 隆	泌尿器科	¥3,100,000	補	文部科学省
				委	
褐色脂肪細胞が持つ尿路結石抑制効果の機序解明と新規予防法開発	杉野 輝明	泌尿器科	¥2,100,000	補	文部科学省
				委	
低酸素ストレスに着目した腎結石の新規予防薬の開発	河瀬 健吾	泌尿器科	¥2,200,000	補	文部科学省
				委	
オミクス解析による結石形成分子ネットワーク解明とゲノム創薬による新規治療薬の開発	茶谷 亮輔	泌尿器科	¥1,600,000	補	文部科学省
				委	
ランスシャンプアーニユアルデンヌ大学との教育・研究の交流拡充と合同シンポジウムの開催	安井 孝周	泌尿器科	¥500,000	補	令和2年度特別研究奨励費
				委	
原発性高シュウ酸尿症に対する新規治療薬(DCR_PHXC)の有効性・安全性評価のための国際共同治験	濱本 周造	泌尿器科	¥150,000	補	令和2年度特別研究奨励費
				委	
尿道下裂に対する術前テストステロン治療の組織学的影響の解明と適正な治療法の確立	林 祐太郎	小児泌尿器科	¥300,000	補	令和2年度特別研究奨励費
				委	
結晶工学・分子細胞学・遺伝学が導き出すマトリックスを標的としたマクロファージによる尿路結石の結晶溶解療法の開発	田口 和己	泌尿器科	¥1,125,000	補	令和2年度特別研究奨励費
				委	
Omics解析を用いたオートファジー依存型結石抑制遺伝子の同定による新規分子標的治療薬の開発	海野 怜	泌尿器科	¥500,000	補	第14回一般社団法人日本泌尿器科学会ヤングリサーチグラント
				委	
腎オルガノイドを用いた新規尿路結石モデルの作成と尿路結石溶解療法の開発	岡田 朋記	泌尿器科	¥200,000	補	公益財団法人愛知腎臓財団
				委	

小計10件

EAU Congress ミラノ(イタリア)の参加	加藤 大貴	泌尿器科	¥300,000	補	公益財団法人日東学術振興財団
				委	
ウェアラブルデバイスを用いた術者ストレスのリアルタイムモニタリング法の樹立と新たな術者育成プログラムの開発に向けた臨床研究－ウェアラブルデバイスを用いた術者育成法－	内木 拓	泌尿器科	¥420,000	補	一般社団法人日本泌尿器内視鏡学会
				委	
38th World Congress of Endourology and Uro-Tecgnology (和名:世界泌尿器内視鏡学会)	瀨本 周造	泌尿器科	¥168,000	補	公益財団法人豊秋奨学会
				委	
結晶工学と分子生物学の融合による尿路結石の溶解療法の開発	安井 孝周	泌尿器科	¥3,000,000	補	公益財団法人内藤記念科学振興財団
				委	
精子形成障害に対する抗炎症治療への応用を目指したヒト精巣における炎症関連物質の発現解析	岩月 正一郎	泌尿器科	¥500,000	補	一般財団法人愛知健康増進財団
				委	
バイオインフォマティクス創薬による尿路結石のマトリックスを標的とした結晶食溶解療法の開発	田口 和己	泌尿器科	¥1,000,000	補	公益財団法人堀科学芸術振興財団
				委	
時期特異的な精子幹細胞の分化過程の包括的解析と生殖医療への新規治療戦略	水野 健太郎	小児泌尿器科	¥7,100,000	補	文部科学省
				委	
造精機能障害に対するエピゲノム創薬を目指したヒストン修飾酵素Kdm5aの機能解析	西尾 英紀	小児泌尿器科	¥300,000	補	文部科学省
				委	
エピジェネティックな精子形成障害機序の解明による男性不妊症治療法の開発	西尾 英紀	小児泌尿器科	¥1,000,000	補	稲盛財団
				委	
ヒストン修飾に関連した精子形成障害機序の解明による男性不妊症の新規治療法の確立	西尾 英紀	小児泌尿器科	¥1,000,000	補	日東学術振興財団
				委	

小計10件

乳幼児期の精巣発育における内分泌環境の生理学的意義の解明－精子幹細胞の分化メカニズム解明を目指して－	水野 健太郎	小児泌尿器科	¥2,400,000	補	川野小児医学奨学財団
				委	
乳がん患者の再発不安・恐怖に対するスマートフォン問題解決療法および行動活性化療法の有効性：無作為割付比較試験	明智 龍男	精神科	¥16,410,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
				委	
がん患者の家族・遺族に対する効果的な精神心理的支援法の開発研究	明智 龍男	精神科	¥6,750,000	補	厚生労働科省
				委	
高齢者の医療事故を自動予測する電子カルテシステムの開発-ディープラーニングの応用	明智 龍男	精神科	¥700,000	補	文部科学省
				委	
自閉スペクトラム症の親に対するスマートフォンによる問題解決療法と効果検証	山田 敦朗	精神科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
せん妄に対する医療事故予防:AIとセンシング技術による早期発見システムの構造	久保田 陽介	精神科	¥400,000	補	文部科学省
				委	
脳機能画像を用いた慢性めまいに対するACTの効果予測因子と作用機序の解明	近藤 真前	精神科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
重度精神障害者を介護する家族の感情評価尺度の開発-介護過程の曼荼羅的理解-	白石 直	精神科	¥800,000	補	文部科学省
				委	
難治性パニック障害の予後予測因子解明と発達特性にマッチした修正型心理療法の開発	井野 敬子	精神科	¥1,200,000	補	文部科学省
				委	
慢性めまいの心理学的要因の神経基盤の解明:心理療法前後のfMRI画像研究	桑原 絢也	精神科	¥1,100,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

TRT抗体性慢性耳鳴に対するACTプログラムの開発と長期的治療効果の検証	高島 聡	精神科	¥1,100,000	補	文部科学省
				委	
治療可能性なる指標を用いたうつ病の対人関係療法の効果予測:個別化医療に向けて	今井 理紗	精神科	¥700,000	補	文部科学省
				委	
乳がん患者のうつ病へ包括的に介入する対人関係療法の開発と効果検証	利重 裕子	精神科	¥1,000,000	補	文部科学省
				委	
がん患者の不安、抑うつに対するスマートフォン精神療法の有効性:無作為割付比較試験	明智 龍男	精神科	¥2,650,000	補	文部科学省
				委	
患者意向調査を踏まえて開発する、看護師協働の終末期意思決定支援プログラム	長谷川 貴昭	緩和ケアセンター	¥700,000	補	文部科学省
				委	
直線閾値なし(linear-no-threshold)仮説の放射線生物学的検証	芝本 雄太	放射線科	¥1,100,000	補	文部科学省
				委	
肺・肝以外の諸臓器における定位放射線治療の効果と安全性の評価	芝本 雄太	放射線科	¥50,000	補	文部科学省
				委	
放射線生物学的基礎実験に基づく定位照射の最適照射間隔の確立	芝本 雄太	放射線科	¥100,000	補	文部科学省
				委	
肺癌の定位放射線治療における最適な治療計画法の確立に向けた多施設共同臨床研究	石倉 聡	放射線科	¥800,000	補	文部科学省
				委	
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	石倉 聡	放射線科	¥500,000	補	国立研究開発法人 国立がん研究センター
				委	

小計10件

切除可能な肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験	石倉 聡	放射線科	¥200,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	石倉 聡	放射線科	¥390,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
肺尖部胸壁浸潤癌に対する化学放射線療法後の術前後デュルバルマブもしくはデュルバルマブ維持療法を併用した集学的治療に関する単群検証的試験	石倉 聡	放射線科	¥1,000,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
子宮頸癌根治術後再発高リスク患者に対する強度変調放射線治療(IMRT)を用いた低毒性補助療法の確立に向けての研究	石倉 聡	放射線科	¥100,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
				委	
テクスチャ解析を用いた縦隔腫瘍の新たな画像診断法の確立	小澤 良之	放射線科	¥850,000	補	文部科学省
				委	
術前画像のマルチパラメトリック解析による尿管癌手術リスク診断法の樹立と低侵襲治療	小澤 良之	放射線科	¥25,000	補	文部科学省
				委	
肺動静脈奇形に対する塞栓術後の新たな画像診断:造影剤を使用しない非侵襲的血流評価	小澤 良之	放射線科	¥50,000	補	文部科学省
				委	
放射線生物学的基礎実験に基づく定位照射の最適照射間隔の確立	富田 夏夫	放射線科	¥500,000	補	文部科学省
				委	
肺動静脈奇形に対する塞栓術後の新たな画像診断:造影剤を使用しない非侵襲的血流評価	富田 夏夫	放射線科	¥50,000	補	文部科学省
				委	
肺動静脈奇形に対する塞栓術後の新たな画像診断:造影剤を使用しない非侵襲的血流評価	下平 政史	放射線科	¥1,500,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

術前画像のマルチパラメトリック解析による尿管癌手術リスク診断法の樹立と低侵襲治療	下平 政史	放射線科	¥50,000	補	文部科学省
				委	
テクスチャ解析を用いた縦隔腫瘍の新たな画像診断法の確立	下平 政史	放射線科	¥25,000	補	文部科学省
				委	
肺動静脈奇形に対する塞栓術後の新たな画像診断:造影剤を使用しない非侵襲的血流評価	下平 政史	放射線科	¥1,400,000	補	文部科学省
				委	
術前画像のマルチパラメトリック解析による尿管癌手術リスク診断法の樹立と低侵襲治療	中川 基生	放射線科	¥725,000	補	文部科学省
				委	
テクスチャ解析を用いた縦隔腫瘍の新たな画像診断法の確立	中川 基生	放射線科	¥25,000	補	文部科学省
				委	
肺動静脈奇形に対する塞栓術後の新たな画像診断:造影剤を使用しない非侵襲的血流評価	中川 基生	放射線科	¥50,000	補	文部科学省
				委	
代謝標的放射線治療を目指した分子イメージング法の確立	河合 辰哉	放射線科	¥3,300,000	補	文部科学省
				委	
肺動静脈奇形に対する塞栓術後の新たな画像診断:造影剤を使用しない非侵襲的血流評価	河合 辰哉	放射線科	¥50,000	補	文部科学省
				委	
放射線腸炎の克服と、まったく新しい診断技術「放射線生検」の開発	村井 太郎	放射線科	¥1,400,000	補	文部科学省
				委	
乳癌のサブタイプ分類に対するmultiexponential拡散解析の研究 研究課題	小川 正樹	放射線科	¥1,300,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

ニトログリセリン投与下腹壁穿通枝造影CTAの視認性向上と3D再構成モデル構築	浦野 みすぎ	放射線科	¥1,200,000	補	文部科学省
				委	
前立腺癌放射線治療の新たな戦略:透視確認可能なハイドロゲルの開発	太田 賢吾	放射線科	¥200,000	補	文部科学省
				委	
リアルタイムイメージングを用いた陽子線照射後の癌細胞動態メカニズムの解明	橋本 慎吾	放射線科	¥600,000	補	文部科学省
				委	
CTAによるAdamkiewicz動脈描出改善;ニトログリセリン舌下投与の有用性	永井 圭一	放射線科	¥800,000	補	文部科学省
				委	
前頭前皮質機能に着眼した慢性疼痛発症メカニズムの解明と治療への応用	徐 民恵	麻酔科	¥900,000	補	文部科学省
				委	
海馬における神経細胞の新生低下に注目した慢性疼痛の発症機序解明	祖父江 和哉	麻酔科	¥1,100,000	補	文部科学省
				委	
蘇生後脳症に対する脳再生治療法の応用を目指した基礎的研究	藤掛 数馬	麻酔科	¥900,000	補	文部科学省
				委	
大規模電気生理記録から疼痛特異的なパターンを見出す脳波モデルの作成と臨床応用	草間 宣好	麻酔科	¥900,000	補	文部科学省
				委	
急性脳障害に対するエリスロポエチンの脳保護治療開発の基盤研究	田村 哲也	麻酔科	¥800,000	補	文部科学省
				委	
多施設データベース構築によるPACU(麻酔後ケアユニット)の安全性と有用性の検証	仙頭 佳起	麻酔科	¥600,000	補	文部科学省
				委	

小計10件

大規模脳活動記録とイメージングによる痛み認知の脳内情報伝達回路の解明	田中 基	麻酔科	¥1,900,000	補	文部科学省
				委	
術後回復室(PACU)退室基準を活用した本邦の小児術後管理の質の向上	長谷川 達也	麻酔科	¥600,000	補	文部科学省
				委	
食品基礎科学を応用した新規咀嚼機能評価法の開発とオーラルフレイルへの波及効果	渋谷 恭之	歯科口腔外科	¥1,430,000	補	文部科学省
				委	

小計3件

計212件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Akatsu H,Manabe T,KawadeY et al.	総合内科・総合診療科	Iron deposition in autopsied liver specimens from older patients receiving intravenous iron infusion.	Journal.Pone.2020Aug 0237104(オンライン ン)	Original Article
2	Kei Fujiwara	肝臓内科	Novel genetic rearrangements in hepatitis B virus: Complex structural variations and structural variation polymorphisms	Viruses. 2021; 13(3), 473	Review
3	Yoshida M, Imafuji H, Hayashi K, et al.	肝・膵臓内科	Endoscopic ultrasound-guided jejunojejunostomy with rendezvous contrast-filling assistance in afferent limb syndrome	Endoscopy. 2021 Online	Case report
4	Yoshida M, Naitoh I, Hayashi K, et al.	肝・膵臓内科	Four-Step Classification of Endoscopic Transpapillary Gallbladder Drainage and the Practical Efficacy of Cholangioscopic Assistance	Gut Liver. 2021 May 15;15(3):476-485.	Original Article
5	Yoshida M, Inoue T, Naitoh I , et al.	肝・膵臓内科	Practical Experiences of Unsuccessful Hemostasis with Covered Self-Expandable Metal Stent Placement for Post-Endoscopic Sphincterotomy Bleeding	Clin Endosc. 2020 Nov 19. Online	Case report
6	Yoshida M, Naitoh I, Yamada R , et al.	肝・膵臓内科	On-and-off deployment technique of a lumen-apposing metal stent during endoscopic pancreatic necrosectomy	Endoscopy. 2020 May;52(5):E158-E159.	Case report
7	Jinno N, Yoshida M, Hayashi K , et al.	肝・膵臓内科	Autotaxin in ascites promotes peritoneal dissemination in pancreatic cancer	Cancer Sci. 2021 Feb;112(2):668-678.	Original Article

小計7件

8	Miyabe K, Hori Y, Yoshida M , et al.	肝・膵臓内科	Over-the-scope-clip treatment for perforation of the duodenum after endoscopic papillectomy.	VideoGIE. 2021 Jan 16;6(2):101-104.	Case report
9	Saito K, Matsuo Y, Ueda G , et al.	肝・膵臓内科	A hybrid approach for chronic pancreatitis: combination of laparoscopic assisted distal pancreatectomy and open Frey procedure.	BMC Surg. 2021 Feb 18;21(1):91.	Original Article
10	Kato T, Matsuo Y, Ueda G , et al.	肝・膵臓内科	Epithelial cyst arising in an intrapancreatic accessory spleen: a case report of robotic surgery and review of minimally invasive treatment.	BMC Surg. 2020 Oct 31;20(1):263.	Case report
11	Toyohara T, Nakazawa T, Zakharia K , et al.	肝・膵臓内科	IgG4-related Sclerosing Cholangitis Complicated with Cholangiocarcinoma and Detected by Forkhead Box P3 Immunohistochemical Staining.	Intern Med. 2021 Mar 15;60(6):859-866.	Original Article
12	Miyabe K, Notohara K, Asano G , et al.	肝・膵臓内科	Early Detection of High-grade Biliary Intraepithelial Neoplasia (BillN-3) in the Cystic Duct Visualized by SpyGlass DS Cholangioscopy.	Intern Med. 2021 Jan 1;60(1):47-52.	Case report
13	Natsume M, Shimura T, Iwasaki H , et al.	肝・膵臓内科	Omental adipocytes promote peritoneal metastasis of gastric cancer through the CXCL2-VEGFA axis.	Br J Cancer. 2020 Aug;123(3):459-470.	Original Article
14	Kanemitsu Y, Fukumitsu K, Kurokawa R,他	呼吸器・アレルギー内科	Increased Capsaicin Sensitivity in Patients with Severe Asthma Is Associated with Worse Clinical Outcome.	Am J Respir Crit Care Med. 1;201(9):1068-1077, 2020.	Original Article
15	Tajiri T, Wada C, Ohkubo H,他	呼吸器・アレルギー内科	Acute Eosinophilic Pneumonia Induced by Switching from Conventional Cigarette Smoking to Heated Tobacco Product Smoking.	Intern Med. 15;59(22):2911-2914, 2020.	Case report

小計8件

16	Kanemitsu Y, Fukumitsu K, Kurokawa R, 他	呼吸器・アレルギー内科	Moulds and Staphylococcus aureus enterotoxins are relevant allergens to affect Type 2 inflammation and clinical outcomes in chronic rhinosinusitis patients	ERJ Open Res. 10;6(4):00265–2020, 2020.	Original Article
17	Kanemitsu Y, Kurokawa R, Ono J,他	呼吸器・アレルギー内科	A.Increased Serum Periostin Levels and Eosinophils in Nasal Polyps Are Associated with the Preventive Effect of Endoscopic Sinus Surgery for Asthma Exacerbations in Chronic Rhinosinusitis Patients.	Int Arch Allergy Immunol. 181(11):862–870, 2020.	Original Article
18	Takeda N, Takemura M, Kanemitsu Y, 他	呼吸器・アレルギー内科	Effect of anti-reflux treatment on gastroesophageal reflux-associated chronic cough: Implications of neurogenic and neutrophilic inflammation.	J Asthma. 57(11):1202–1210, 2020.	Original Article
19	Hasegawa T, Sekine R, Akechi T,他	呼吸器・アレルギー内科	Rehabilitation for Cancer Patients in Inpatient Hospices/Palliative Care Units and Achievement of a Good Death: Analyses of Combined Data From Nationwide Surveys Among Bereaved Family Members.	J Pain Symptom Manage. 60(6):1163–1169, 2020.	Original Article
20	Tajiri T, Kawachi H, Yoshida H,他	呼吸器・アレルギー内科	The causes of acute cough: a tertiary-care hospital study in Japan.	J Asthma. 17:1–7, 2020.	Original Article
21	Naniwa T, Uehara K, Yamabe T, et al.	リウマチ・膠原病内科	Reintroduction of tocilizumab elicited macrophage activation syndrome in a patient with adult-onset Still’s disease with a previous successful tocilizumab treatment.	Mod Rheumatol Case Rep. 2021 Jul;5(2):360–364.	Case report
22	Tamechika SY, Isogai S, Maeda S, et al.	リウマチ・膠原病内科	Improvement of Chronic Rhinosinusitis and Reduction of the Myeloperoxidase-Antineutrophil Cytoplasmic Antibody Titer in a Patient with Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis by Additional Mepolizumab.	Case Rep Rheumatol. 2021 Mar 29;2021:5561762.	Case report

小計7件

23	Ohmura SI, Yamabe T, Naniwa T.	リウマチ・膠原病内科	Successful dose escalation of tofacitinib for refractory dermatomyositis and interstitial lung disease with anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibodies.	Mod Rheumatol Case Rep. 2021 Jan;5(1):76-81.	Case report
24	Naniwa T, Iwagaitsu S, Kajiura M.	リウマチ・膠原病内科	Successful cessation of tumor necrosis factor inhibitor treatment in rheumatoid arthritis patients and potential predictors for early flare: An observational study in routine clinical care.	Mod Rheumatol. 2020 Nov;30(6):948-958.	Original Article
25	Ohmura SI, Uehara K, Yamabe T , et al.	リウマチ・膠原病内科	Successful use of short-term add-on tocilizumab for refractory adult-onset still's disease with macrophage activation syndrome despite treatment with high-dose glucocorticoids, cyclosporine, and etoposide.	Mod Rheumatol Case Rep. 2020 Jul;4(2):202-207.	Case report
26	Seo Y, Ohte N.	循環器内科	Significance of Atrial Fibrillation Management Based on the Sequence of Atrial Fibrillation and Heart Failure Onset	circ j 2020 Aug 25	Original Article
27	Fukuta H, Goto T, Wakami K, Kamiya T , et al.	循環器内科	Effect of renin-angiotensin system inhibition on cardiac structure and function and exercise capacity in heart failure with preserved ejection fraction: a meta-analysis of randomized controlled trials.	Heart Fail Rev. 2020/6/19	Review
28	Fukuta H, Goto T, Wakami K , et al.	循環器内科	Effects of catheter-based renal denervation on heart failure with reduced ejection fraction: a meta- analysis of randomized controlled trials.	Heart Fail Rev. 2020/5/11	Review
29	Sugiura T, Dohi Y, Takagi Y , et al.	循環器内科	Relationships of Obesity-Related Indices and Metabolic Syndrome with Subclinical Atherosclerosis in Middle-Aged Untreated Japanese Workers.	J Atheroscler Thromb. 2020/4/1	Original Article
30	Kitada S, Kawada Y, Osaga S , et al.	循環器内科	Left ventricular contractile performance and heart failure in patients with left ventricular ejection fraction more than 40.	Heart Vessels. 2020/6/5	Original Article

小計8件

31	Goto T, Mori K, Nakayama T, et al.	循環器内科	Transmission Rate of Remote Monitoring and Mortality in Patients With Pacemaker.	Circ Rep. Published online 2020 Aug 29	Original Article
32	Ito T, Yokoi M, Fujita H, et al.	循環器内科	Myocardial Ischemia Due to Silent Spontaneous Coronary Artery Spasm Detected by Coronary Computed Tomography-Derived Fractional Flow Reserve (FFR <sub>CT</sub> )	Circ J. 11-Feb-2021	Original Article
33	Shinsuke Iida, Tadao Ishida, Katsuhisa Horimoto, et al.	血液・腫瘍内科	Medical database analysis of Japanese multiple myeloma patients with planned stem cell transplantation (MEDALIST) – a focus on healthcare resource utilization and cost	Int J Hematol . 2021 Feb;113(2):271-278.	Original Article
34	Dai Maruyama, Shinsuke Iida, Gakuto Ogawa, et al.	血液・腫瘍内科	Randomised phase II study to optimise melphalan, prednisolone, and bortezomib in untreated multiple myeloma (JCOG1105)	Br J Haematol . 2021 Feb;192(3):531-541.	Original Article
35	Takashi Kanamori, Masashi Sanada, Masaki Ri, et al.	血液・腫瘍内科	Genomic analysis of multiple myeloma using targeted capture sequencing in the Japanese cohort	Br J Haematol . 2020 Dec;191(5):755-763.	Original Article
36	Haruhito Totani, Keiko Shinjo, Miho Suzuki, et al.	血液・腫瘍内科	Autocrine HGF/c-Met signaling pathway confers aggressiveness in lymph node adult T-cell leukemia/lymphoma	Oncogene . 2020 Aug;39(35):5782-5794.	Original Article
37	Takuto Tachita, Shiori Kinoshita, Masaki Ri, et al.	血液・腫瘍内科	Expression, mutation, and methylation of cereblon-pathway genes at pre- and post-lenalidomide treatment in multiple myeloma	Cancer Sci . 2020 Apr;111(4):1333-1343.	Original Article
38	Shigeru Kusumoto, Yasuhito Tanaka, Ritsuro Suzuki, et al.	血液・腫瘍内科	Ultra-high sensitivity HBsAg assay can diagnose HBV reactivation following rituximab-based therapy in patients with lymphoma	J Hepatol . 2020 Aug;73(2):285-293.	Original Article

小計8件

39	Takaki Kikuchi , Shigeru Kusumoto , Yasuhito Tanaka , et al.	血液・腫瘍内科	Hepatitis B virus reactivation in a myeloma patient with resolved infection who received daratumumab-containing salvage chemotherapy	J Clin Exp Hematop . 2020 Jun 20;60(2):51-54.	Case report
40	Masaki Ri , Masanobu Kasai , Akio Kohno ,et al.	血液・腫瘍内科	A survey of blood transfusion errors in Aichi Prefecture in Japan: Identifying major lapses threatening the safety of transfusion recipients	Transfus Apher Sci . 2020 Jun;59(3):102735.	Original Article
41	Tsuda Y, Sakurai K, Madokoro Y 他	脳神経内科	Importance of Chronological Changes on High-Resolution Vessel Wall Imaging for Diagnosis of Isolated Anterior Cerebral Artery Dissection.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2020 Oct (オンライン)	Case report
42	Inoue H, Taji H, Yamada K 他	脳神経内科	Dasatinib-induced Reversible Demyelinating Peripheral Neuropathy and Successful Conversion to Nilotinib in Chronic Myelogenous Leukemia.	Intern Med. 2020 Oct 1;59:2419-2421	Case report
43	Inoue H, Yamada K, Fujii A他	脳神経内科	A Patient with Fulminant Myasthenia Gravis Is Seropositive for Both AChR and LRP4 Antibodies, Complicated by Autoimmune Polyglandular Syndrome Type 3.	Intern Med. 2020 Sep 1;59:2177-2181	Case report
44	Madokoro Y, Kato D, Terada K他	脳神経内科	Selection of treatment for ictal asystole patients based on EEG and ECG with temporary cardiac pacing.	Neurol Sci. 2020 Jul;41:1973-1975	Letter
45	Kan Omi, Yoichi Matsuo, et al.	消化器外科	Escin inhibits angiogenesis by suppressing interleukin-8 and vascular endothelial growth factor production by blocking nuclear factor- $\kappa$ B activation in pancreatic cancer cell lines	Oncol Rep. 2021 May;45(5):55.	Original Article
46	Mamoru Morimoto, Yoichi Matsuo, et al.	消化器外科	Exploring the Fine-Layer Structure Around a Glissonian Pediclein Cadaveric Models.	Surgical Gastroenterol Oncolgy, 25(2): 65-70	Original Article

小計8件

47	Tomokatsu Kato, Yoichi Matsuo, et al.	消化器外科	Epithelial cyst arising in an intrapancreatic accessory spleen: a case report of robotic surgery  and review of minimally invasive treatment	BMC Surgery, 20(1): 263-269	Case report
48	Hiroki Takahashi, Takeshi Yanagita, Takuya Suzuki, et al.	消化器外科	Accurate localization of rectal cancer using near infrared ray-guided surgery with intra-operative colonoscopy and da Vinci Firefly technology	Surgery Today (2020) 50:205-208	Original Article
49	Takeshi Yanagita, Masayasu Hara, Satoshi Osaga, et al.	消化器外科	Efficacy of intraoperative ICG fluorescence imaging evaluation for preventing anastomotic leakage after left-sided colon or rectal cancer surgery: a propensity score-matched analysis	Surgical Endoscopy : 3 December 2020	Original Article
50	Nakaya seiichi , Ryo Ogawa他	消化器外科	Robot-assisted gastrectomy for gastric cancer in a patient with a colostomy: a case report with adaptive techniques and technical points	Asian J Endosc Surg . 2020 Oct;13(4):544-547	Case report
51	Fujihata Siro, Ryo Ogawa 他	消化器外科	The feasibility of interval laparoscopic appendectomy and appropriate patient selection; a retrospective study for adult appendiceal mass	Asian J Endosc Surg . 2021 Apr;14(2):184-192.	Original Article
52	Fujihata Siro, Ryo Ogawa 他	消化器外科	The impact of skeletal muscle wasting during neoadjuvant chemotherapy on postoperative anastomotic leakage in patients with esophageal cancer	Esophagus . 2021 Apr;18(2):258-266	Original Article
53	Oda R , Okuda K , Yamashita Y 他	呼吸器外科	Long-term Survivor of Pulmonary Combined Large Cell Neuroendocrine Carcinoma Treated With Nivolumab	Thorac Cancer. 2020 Jul; 11(7):2036-2039	Case report
54	Yokota K, Okuda K, Ozawa Y 他	呼吸器外科	A Simple and reliable method to preoperatively detect a common trunk of the left pulmonary vein	J Thorac Dis. 2020 Aug; 12(8):4082-4089	Original Article

小計8件

55	Oda R, Okuda K, Murase T 他	呼吸器外科	Pericardial immunoglobulin G4-related inflammatory pseudotumor after right upper lobectomy for lung cancer	Thorac Cancer. 2020 Aug; 11(10):3034-3037	Case report
56	Okuda K, Nakanishi R	呼吸器外科	Circulating Cancer-Associated Cells for the Early Detection and Decision-Making Concerning Effective Therapeutic Strategies for NSCLC	J Thorac Oncol. 2020 Sep; 15(9):1397-1398	Others
57	Matsui T, Takahashi Y, Nakada T 他	呼吸器外科	Efficacy of Xenon Light With Indocyanine Green for Intersegmental Visibility in Thoracoscopic Segmentectomy	J Surg Res. 2021 Mar; 259:39-46,	Original Article
58	Sakane T, Sakamoto Y, Masaki A 他	呼吸器外科	Mutation Profile of Thymic Carcinoma and Thymic Neuroendocrine Tumor by Targeted Next-generation Sequencing	Clin Lung Cancer. 2021 Mar; 22(2):92-99.e4	Original Article
59	Tatematsu T, Okuda K, Saito Y 他	呼吸器外科	The usefulness of fluorodeoxyglucose-positron emission tomography as a preoperative diagnostic tool for thymic epithelial tumors	Gland Surg. 2021 Mar; 10(2):690-696	Original Article
60	Kawaguchi Y, Okamoto H, Endo K, 他	整形外科	Pyogenic tenosynovitis of the wrist due to Corynebacterium striatum in a patient with dermatomyositis : A case report	Medicine(Baltimore). 2020 Jan; 99: e18761	Original Article
61	Takeuchi S, Sugimoto K, Goto H, 他	整形外科	Characteristics of Femoral Torsion Angles and Relationships Between Femoral Torsion Angles and Hip Rotational Motion Variables in Adult Baseball Players	Orthop J Sports Med. 2020 Dec; 8: 2325967120966319	Original Article
62	Kawanishi Y, Nozaki M, Kobayashi M, 他	整形外科	Preoperative Knee Instability in the Pivot Shift Affects Residual Instability Evaluated Intraoperatively by Quantitative Measurement during Double Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction	Orthop J Sports Med. 2020 Oct; 8: 2325967120959020	Original Article

小計8件

63	Saito S, Aiba H, Yamada S, Okamoto H, 他	整形外科	Efficacy of combination-chemotherapy with pirarubicin, ifosfamide, and etoposide for soft tissue sarcoma: a single institution retrospective analysis	BMC Cancer. 2020 Sep; 20: 868-868	Original Article
64	Kuroyanagi G, Sakai G, Otsuka T, 他	整形外科	HSP22 (HSPB8) positively regulates PGF2 $\alpha$ -induced synthesis of interleukin-6 and vascular endothelial growth factor in osteoblasts	J Orthop Surg Res. 2021 Jan; 16: 72	Original Article
65	Yoshida M, Takenaga T, Chan CK, 他	整形外科	Location and magnitude of capsular injuries varies following multiple anterior dislocations of the shoulder: Implications for surgical repair.	J Orthop Res. 2021 Mar; 39: 648-656	Original Article
66	Yoshihara H, Sugiura-Ogasawara M, Ozawa F et al	産科婦人科	Polo-like kinase 4 and stromal antigen 3 are not associated with recurrent pregnancy loss caused by embryonic aneuploidy	Hum Genome Var. 7: e18, 2020	Original Article
67	Yoshihara H, Sugiura-Ogasawara M, Goto S et al	産科婦人科	Levothyroxine and subclinical hypothyroidism in patients with recurrent pregnancy loss	Am J Reprod Immunol. 7; e13341, 2020	Original Article
68	Ogawa Shino, Misumi Sachiyo, Sugiura-Ogawsawara mayumi , et al.	産科婦人科	Transplanted Oligodendrocyte progenitor cells survive in the brain of a rat neonatal white matter injury model but less mature in comparison with the normal brain	Cell Transplant.2020 Jan-Dec;29	Original Article
69	Ieda Daisuke, Negishi Yutaka, Miyamoto Tomomi 他	小児科	Two mouse models carrying truncating mutations in Magel2 show distinct phenotypes.	PLoS One . 2020 Aug 17;15(8):e0237814	Original Article
70	Kato Kohji, Oka Yasuyoshi, Muramatsu Hideki 他	小児科	Biallelic VPS35L pathogenic variants cause 3C/Ritscher-Schinzel-like syndrome through dysfunction of retriever complex	J Med Genet . 2020 Apr;57(4):245-253	Original Article

小計8件

71	Suzuki Tomoko, Togawa Takao, Kanno Hitoshi 他	小児科	A Novel $\alpha$ -Spectrin Pathogenic Variant in Trans to $\alpha$ -Spectrin LELY Causing Neonatal Jaundice with Hemolytic Anemia from Hereditary Pyropoikilocytosis Coexisting with Gilbert Syndrome.	J Pediatr Hematol Oncol . 2021 Mar 1;43(2):e250-e254	Case report
72	Ohashi Kei, Fukuhara S, Miyachi T 他	小児科	Comprehensive Genetic Analysis of Non-syndromic Autism Spectrum Disorder in Clinical Settings.	J Autism Dev Disord. 2021 Feb 15. (オンライン)	Original Article
73	Kato Kohji, Miya F, Oka Y 他	小児科	A novel missense variant in CUL3 shows altered binding ability to BTB-adaptor proteins leading to diverse phenotypes of CUL3-related disorders.	J Hum Genet. 66:491-498; 2021.	Case report
74	Tanaka Tatsushi, Aoyama K, Suzuki A 他	小児科	Clinical and Genetic Investigation of 136 Japanese Patients With Congenital Hypothyroidism	J Pediatr Endocrinol Metab. 2020 May 29;33(6):691-701.	Original Article
75	Yamaguchi Naoya, Ban K, Suzuki A 他	小児科	Novel compound heterozygous MCOLN1 mutations identified in a Japanese girl with severe developmental delay and thin corpus callosum	Brain and Dev. 42: 298-301; 2020.	Case report
76	Takeda Risa, Takeda R, Kamei M 他	小児科	A case of infantile acute lymphoblastic leukemia with bilateral intraocular relapse	Nagoya Medical Journal. Vol.56・221-227・2020	Case report
77	Kondo Yuto, Aoyama K, Suzuki H 他	小児科	De Novo 2q36.3q37.1 Deletion Encompassing TRIP12 and NPPC Yields Distinct Phenotypes	Hum Genome Var. 2020 Jun 1;7:19. eCollection 2020. (オンライン)	Case report
78	Esaki Y, Hirano Y, Kurobe R 他	眼科	Morphologic classifications and locations of microaneurysms and clinical relevance in branch retinal vein occlusion.	Clin Ophthalmol 14: 1909-1919, 2020.	Original Article

小計8件

79	Sugitani K, Hirano Y, Kurobe R 他	眼科	Three-dimensional analysis of choroidal vessels in eyes with Vogt-Koyanagi-Harada disease before and after treatment.	Can J Ophthalmol 55: 500-508, 2020.	Original Article
80	Yuguchi T, Ogura S, Hirano Y 他	眼科	Autologous posterior capsule flap transplantation in the management of refractory macular hole in a pseudophakic eye.	Retin Cases Brief Rep. 2021 Jan 18.doi: 10.1097/ICB.0000000000001128. Online ahead of print.	Original Article
81	Inagaki M, Hirano Y, Yasuda Y 他	眼科	Twenty-four month results of intravitreal ranibizumab for macular edema after branch retinal vein occlusion: visual outcomes and resolution of macular edema.	Semin Ophthalmol. 2021 Feb 22:1-8.doi: 10.1080/08820538.2021.1890147. Online ahead of print.	Original Article
82	Iwasaki S, Shojaku, H, Murofushi T, Seo T, Kitahara T他	耳鼻いんこう科	Diagnostic and therapeutic strategies for Meniere's disease of the Japan Society of Equilibrium Research.	Auris Nasus Larynx. 2021 Feb; 48(1): 15-22	Original Article
83	Kabaya K, Kondo M, Naganuma H 他	耳鼻いんこう科	Disability in Protracted Benign Paroxysmal Positional Vertigo at One Month from Symptom Onset - A Questionnaire Survey.	Journal of Otology & Rhinology. 2020 Nov; 9(7): 401	Original Article
84	Kayoko Kabaya, Masaki Kondo, Akina Fukushima他	耳鼻いんこう科	Prevalence and Severity of Persistent Postural-Perceptual Dizziness in Patients with Peripheral Vestibular Disorders: A Cross-Sectional Study.	Journal of Otology & Rhinology. 2021 Jan; 10(1): 1000401	Original Article
85	Shinichi Iwasaki, Hideo Shojaku, Toshihisa Murofushi 他	耳鼻いんこう科	Diagnostic and therapeutic strategies for Meniere's disease of the Japan Society for Equilibrium Research.	Auris Nasus Larynx. 2021 Feb; 48(1): 15-22	Original Article
86	Akira Inagaki, Ayano Kojima, Masaki Ogawa他	耳鼻いんこう科	Imaging manifestations on sequential magnetic resonance imaging in pharyngolaryngeal involvement by varicella zoster virus.	J Neurovirol. 2021 Feb; 27(1): 186-190	Original Article

小計8件

87	Gaku Takano, Shinichi Esaki , Fumi Goshima他	耳鼻いんこう科	Oncolytic activity of naturally attenuated herpes-simplex virus HF10 against an immunocompetent model of oral carcinoma	Mol Ther Oncolytics. 2021 Mar; 20: 220-227	Original Article
88	Kayoko Kabaya , Mariko Takahashi , Yuji Sato 他	耳鼻いんこう科	Relationship between cognition and the severity of chronic tinnitus: Validation of the Japanese version of the Tinnitus Cognitions Questionnaire	Int Tinnitus J. 2021 Mar; 25(1): 112-117	Original Article
89	Inagaki A, Minakata T, Katsumi S,他	耳鼻いんこう科	Data for temporal facial nerve recovery in Ramsay Hunt syndrome following intratympanic steroid therapy.	Data Brief. 2020 Apr; 30: 105549	Original Article
90	Akira Inagaki 1, Mariko Takahashi 1, Shingo Murakami	耳鼻いんこう科	Facial and hearing outcomes in transmastoid nerve decompression for Bell's palsy, with preservation of the ossicular chain.	Clin Otolaryngol. 2021 Mar; 46(2): 325-331	Original Article
91	Shinichi Esaki, Fumi Goshima , Haruka Ozaki 他	耳鼻いんこう科	Oncolytic activity of HF10 in head and neck squamous cell carcinomas.	Cancer Gene Ther. 2020 Dec; 27: 585-598	Original Article
92	Akimichi Morita, Hidetoshi Takahashi, Kentaro Ozawa他	皮膚科	Long-term analysis of adalimumab in Japanese patients with moderate to severe hidradenitis suppurativa: Open-label phase 3 results.	The Journal of dermatology.2021 Jan; 48(1) :3-13	Original Article
93	Motoki Nakamura, Kotaro Nagase, Maki Yoshimitsu他	皮膚科	Glucose-6-phosphate dehydrogenase correlates with tumor immune activity and programmed death ligand-1 expression in Merkel cell carcinoma.	Journal for immunotherapy of cancer.2020 Dec; 8(2) :e001679	Original Article
94	Kan Torii, Akimichi Morita	皮膚科	Specific single nucleotide polymorphism genotypes and association of an IL-12B polymorphism with secondary failure of infliximab therapy in Japanese psoriasis patients.	Journal of dermatological science.2020 Aug;99(2): 135-136	Original Article

小計8件

95	Hiroshi Kato, Motoki Nakamura, Takao Oda	皮膚科	Effectiveness of combined low-dose radiotherapy and pazopanib for controlling the local manifestations of taxane-resistant recurrent angiosarcoma of the head.	JAAD case reports.2020 Aug; 6(8):713-715	Letter
96	Kyoko Ikumi, Tomohiko Kio, Kan Torii他	皮膚科	Successful treatment of dyshidrotic palmoplantar eczema with ultraviolet A1 light-emitting diodes.	The Journal of dermatology.2020 Aug; 47(8): 922-923	Letter
97	Hiroshi Kato, Motoki Nakamura, Shoichi Watanabe他	皮膚科	Combined serum carcinoembryonic antigen and cytokeratin 19 fragment levels provide a sensitive biomarker for lymph node metastasis in extramammary Paget's disease.	The Journal of dermatology .2020 Jul;47(7): 763-769	Original Article
98	Akimichi Morita, Chiharu Tateishi, Shinnosuke Muramatsu	皮膚科	Efficacy and safety of bexarotene combined with photo(chemo)therapy for cutaneous T-cell lymphoma.	The Journal of dermatology.2020 May; 47(5) :443-451	Original Article
99	Taguchi K, Hamamoto S, Osaga S,他	泌尿器科	Comparison of antegrade and retrograde ureterolithotripsy for proximal ureteral stones: a systematic review and meta-analysis.	Transl Androl Urol. 2021 Mar;10(3):1179-1191	Review
100	Taguchi K, Hamamoto S, Kawase K,他	泌尿器科	The First Case Report of Robot-Assisted Fluoroscopy-Guided Renal Access During Endoscopic Combined Intrarenal Surgery.	J Endourol Case Rep. 2020 Dec 29;6(4):310-314	Case report
101	Nishio H, Mizuno K, Kawase K, 他	小児泌尿器科	Robot-Assisted Radical Cystectomy for Pediatric Bladder Rhabdomyosarcoma.	J Endourol Case Rep. 2020 Dec 29;6(4):461-464	Original Article
102	Hamamoto S, AbdelRazek M, Naiki T, 他	泌尿器科	LigaSure versus the standard technique (Hem-o-lok clips) for robot-assisted radical prostatectomy: a propensity score-matched study.	J Robot Surg. 2021 Jan 11 (オンライン)	Original Article

小計8件

103	Sugiyama Y, Naiki T, Tasaki Y, 他	泌尿器科	Effectiveness of continuous monitoring by activity tracker of patients undergoing chemotherapy for urothelial carcinoma.	Cancer Treat Res Commun. 2020;25:100245	Original Article
104	Nagai T, Mizuno K, Usami M,	泌尿器科	Genetic and histopathological analysis of transverse testicular ectopia without persistent Müllerian duct syndrome: two case reports.	J Med Case Rep. 2020 Dec 1;14(1):233	Case report
105	Okada T, Taguchi K, Kato T, 他	泌尿器科	Efficacy of transurethral cystolithotripsy assisted by percutaneous evacuation and the benefit of genetic analysis in a pediatric cystinuria patient with a large bladder stone.	Urol Case Rep. 2020 Oct 28;34:101473	Original Article
106	Taguchi K, Hamamoto S, Kato T, 他	泌尿器科	Robot-assisted fluoroscopy-guided renal puncture for endoscopic combined intrarenal surgery: a pilot single-centre clinical trial.	BJU Int. 2021 Mar;127(3):307-310	Original Article
107	Taguchi K, Hamamoto S, Okada A, 他	泌尿器科	Low bone mineral density is a potential risk factor for symptom onset and related with hypocitraturia in urolithiasis patients: a single-center retrospective cohort study.	BMC Urol. 2020 Oct 29;20(1):174	Original Article
108	Ota Y, Hamamoto S, Matsuyama N, 他	泌尿器科	Pelvic Anatomical Features After Retzius-Sparing Robot-Assisted Radical Prostatectomy Intended for Early Recovery of Urinary Symptoms.	J Endourol. 2021 Mar;35(3):296-304	Original Article
109	Hamamoto S, Okada S, Inoue T, 他	泌尿器科	Prospective evaluation and classification of endoscopic findings for ureteral calculi.	Sci Rep. 2020 Jul 23;10(1):12292	Original Article
110	Naiki T, Sugiyama Y, Tasaki Y, 他	泌尿器科	Efficacy of a Newly Modified Short Hydration Method for Gemcitabine and Cisplatin Combination Chemotherapy in Patients with Urothelial Carcinoma.	Oncology. 2020;98(9):612-620	Original Article

小計8件

111	Nagai T, Naiki T, Hamamoto S, 他	泌尿器科	Comparison of Real-Time Virtual Sonography Navigation Versus BioJet Navigation on Magnetic Resonance Imaging-Guided Prostate Needle Biopsy: A Single Institutional Analysis.	J Endourol. 2020 Jul;34(7):739-745	Original Article
112	Nishio H, Mizuno K, Hayashi Y.他	小児泌尿器科	Robot-Assisted Radical Cystectomy for Pediatric Bladder Rhabdomyosarcoma	J Endourol Case Rep.	Case report
113	Akechi T	精神科	Optimal goal of management of delirium in end-of-life cancer care.	Lancet Oncol 2020, 21(7):872-873.	Original Article
114	Akechi T	精神科	Suicide prevention among patients with cancer.	Gen Hosp Psychiatry 2020, 64:119-120.	Original Article
115	Akechi T, Fujimoto S, Mishiro I, et al	精神科	Treatment of Major Depressive Disorder in Japanese Patients with Cancer: A Matched Cohort Study Using Employer-Based Health Insurance Claims Data.	Clin Drug Investig 2020, 40(12):1115-1125.	Original Article
116	Akechi T, Mishiro I, Fujimoto S, et al	精神科	Risk of major depressive disorder in Japanese cancer patients: A matched cohort study using employer-based health insurance claims data.	Psychooncology 2020, 29(10):1686-1694.	Original Article
117	Akechi T, Mishiro I, Fujimoto S, et al	精神科	Risk of major depressive disorder in spouses of cancer patients in Japan: A cohort study using health insurance-based claims data.	Psychooncology 2020, 29(7):1224-1227.	Original Article
118	Akechi T, Momino K, Katsuki F, et al	精神科	Brief collaborative care intervention to reduce perceived unmet needs in highly distressed breast cancer patients: randomized controlled trial.	Jpn J Clin Oncol . 2021 ;51(2):244-251.	Original Article

小計8件

119	Akechi T, Okuyama T, Uchida M,et al	精神科	Relationships of blood proinflammatory markers with psychological resilience and quality of life in civilian women with posttraumatic stress disorder	Jpn J Clin Oncol 2020, 50(12):1475-1478.	Original Article
120	Akechi T, Sugishita K, Chino B,et al	精神科	Whose depression deteriorates during acute phase antidepressant treatment?	Affect Disord 2020, 260:342-348.	Original Article
121	Hasegawa T, Sekine R, Akechi T,et al	緩和ケアセンター	Rehabilitation for Cancer Patients in Inpatient Hospices/Palliative Care Units and Achievement of a Good Death: Analyses of Combined Data From Nationwide Surveys Among Bereaved Family Members.	J Pain Symptom Manage 2020, 60(6):1163-1169.	Original Article
122	Kuwabara J, Kondo M, Kabaya K, et al	精神科	Acceptance and commitment therapy combined with vestibular rehabilitation for persistent postural-perceptual dizziness: A pilot study.	Am J Otolaryngol 2020, 41(6):102609.	Original Article
123	Shiraishi N, Reilly J	精神科	Content analysis of the emotions affecting caregivers of relatives with schizophrenia.	Current Psychology 2020. . 2019 Dec;27(12):4487- 4495	Original Article
124	Toshishige Y, Kondo M, Kabaya K, ,et al	精神科	Cognitive-behavioural therapy for chronic subjective dizziness: Predictors of improvement in Dizziness Handicap Inventory at 6 months posttreatment.	Acta Otolaryngol 2020, 140(10):827-832.	Original Article
125	Uchida M, Morita T, Akechi T, et al	精神科	Are common delirium assessment tools appropriate for evaluating delirium at the end of life in cancer patients?	Psychooncology 2020, 29(11):1842-1849.	Original Article
126	Shimohira M, Kondo H, Ogawa Y, et.al.	放射線診断・IVR科	Natural History of Unruptured Visceral Artery Aneurysms Due to Segmental Arterial Mediolysis and Efficacy of Transcatheter Arterial Embolization: A Retrospective Multiinstitutional Study in Japan	AJR Am J Roentgenol. 2021 Mar;216(3):691-697. doi: 10.2214/AJR.19.22547. Epub 2021 Jan 13.	Original Article

小計8件

127	Tomita N, Okuda K, Osaga S, et.al.	放射線治療科	Surgery versus stereotactic body radiotherapy for clinical stage I non-small-cell lung cancer: propensity score-matching analysis including the ratio of ground glass nodules	Clin Transl Oncol. 2021 Mar;23(3):638-647. doi: 10.1007/s12094-020-02459-8. Epub 2020 Jul 23.	Original Article
128	Ogawa M, Osaga S, Shiraki N, et.al.	放射線診断・IVR科	Utility of CT texture analysis to differentiate olfactory neuroblastoma from sinonasal squamous cell carcinoma	Sci Rep. 2021 Feb 25;11(1):4679. doi: 10.1038/s41598-021-84048-5.	Original Article
129	Ohta K, Ogino H, Iwata H, et.al.	放射線診断・IVR科	Feasibility of transrectal and transperineal fiducial marker placement for prostate cancer before proton therapy	Jpn J Clin Oncol. 2021 Feb 8;51(2):258-263. doi: 10.1093/jjco/hyaa172.	Original Article
130	Mizuno T, Tomita N, Takaoka T, et.al.	放射線治療科	Dosimetric Comparison of Helical Tomotherapy, Volumetric-Modulated Arc Therapy, and Intensity-Modulated Proton Therapy for Angiosarcoma of the Scalp	Technol Cancer Res Treat. 2021 Jan-Dec;20:1533033820985866. doi: 10.1177/1533033820985866.	Original Article
131	Tomita N, Ogawa S, Aikawa G.	放射線治療科	Abscopal Effect of Pelvic Intensity Modulated Radiation Therapy on Lung Metastases in a Patient With Recurrent Endometrial Cancer	Adv Radiat Oncol. 2020 Sep 22;6(1):100563. doi: 10.1016/j.adro.2020.09.003. eCollection 2021 Jan-Feb.	Case report
132	Ohta K, Shimohira M, Shoji J, et.al.	放射線診断・IVR科	Multiple large pancreaticoduodenal artery aneurysms due to celiac artery occlusion: Combination of the aorto-hepatic bypass and coil embolization with a dual approach through both the superior mesenteric artery and bypass	Radiol Case Rep. 2020 Oct 28;16(1):1-4. doi: 10.1016/j.radcr.2020.10.031. eCollection 2021 Jan.	Case report
133	Ozawa Y, Hiroshima M, Maki H, et.al.	放射線診断・IVR科	Imaging findings of lesions in the middle and posterior mediastinum	Jpn J Radiol. 2021 Jan;39(1):15-31. doi: 10.1007/s11604-020-01025-0. Epub 2021 Jan 18.	Review
134	Hisoshima M, Urano M, Ohashi K, et.al.	放射線診断・IVR科	Utility of 70-kV single-energy CT in depicting the extent of breast cancer for preoperative planning	Breast Cancer Res Treat. 2020 Dec;184(3):817-823. doi: 10.1007/s10549-020-05909-7. Epub 2020 Sep 10.	Original Article

小計8件

135	Ogawa M, Nakagawa M, Arai N, et.al.	放射線診断・IVR科	Evaluation of Thin-slice Coronal Single-shot Turbo Spin-echo Diffusion-weighted Imaging of the Hand: A Comparison with Conventional Echo-planar Diffusion-weighted Imaging	Magn Reson Med Sci. 2020 Dec 1;19(4):382-388. doi: 10.2463/mrms.tn-2019-0115. Epub 2019 Oct 24.	Original Article
136	Tomita N, Uchiyama K, Mizuno T, et.al.	放射線治療科	Early salvage radiotherapy in patients with biochemical recurrence after radical prostatectomy: Its impact and optimal candidate	Asia Pac J Clin Oncol. 2020 Aug;16(4):273-279. doi: 10.1111/ajco.13341. Epub 2020 Jun 9.	Original Article
137	Sawada Y, Shimohira M, Nakagawa M, et.al.	放射線診断・IVR科	Advanced monoenergetic reconstruction technique for dual-energy computed tomography to evaluate endoleaks after endovascular stent-graft placement	Abdom Radiol (NY). 2020 Aug;45(8):2569-2575. doi: 10.1007/s00261-020-02602-7.	Original Article
138	Tomita N, Okuda K, Ogawa Y, et.al.	放射線治療科	Relationship between radiation doses to heart substructures and radiation pneumonitis in patients with thymic epithelial tumors	Sci Rep. 2020 Jul 7;10(1):11191. doi: 10.1038/s41598-020-68168-y.	Original Article
139	Shimohira M, Nagai K, Ohta K, et.al.	放射線診断・IVR科	Use of a steerable triaxial system for challenging catheterization	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2020 Jun;29(3):140-145. doi: 10.1080/13645706.2019.1606018. Epub 2019 Apr 23.	Case report
140	Ishikura S, Kondo T, Murai T, et.al.	放射線治療科	Definitive chemoradiotherapy for squamous cell carcinoma of the esophagus: outcomes for borderline-resectable disease	J Radiat Res. 2020 May 22;61(3):464-469. doi: 10.1093/jrr/rraa008.	Original Article
141	Kamimura Y, Nakanishi T, Sato AB, 他	麻酔科	Effects of the anesthesiologist's experience on postoperative hoarseness after double-lumen endotracheal tube intubation: a single-center propensity score-matched analysis	BMC Anesthesiol. 2020 Nov 5;20(1):278.	Original Article
142	Kamimura Y, Nakanishi T, Boku Sato A, 他	麻酔科	Anesthetic considerations for cesarean delivery in a parturient with hereditary hemorrhagic telangiectasia: a case report	JA Clin Rep. 2021 Mar 1;7(1):19.	Case report

小計8件

143	Nakanishi T, Sobue K.	麻酔科	Pilot line damage at the embedded part of a sutured endotracheal tube intubated via a tracheostomy stoma	Saudi J Anaesth. Jan-Mar 2021;15(1):79-80.	Original Article
144	Nakanishi T, Sento Y, Kamimura Y, 他	麻酔科	Macintosh laryngoscope and i-view™ and C-MAC® video laryngoscopes for tracheal intubation with an aerosol box: a randomized crossover manikin study	JA Clin Rep. 2021 Jun 26;7(1):52.	Original Article
145	Hironori Miyamoto, Tomohisa Nakamura, Hiroyuki Takashima, 他	歯科口腔外科	Investigation of the analgesic effect of platelet-rich fibrin on postoperative pain after mandibular impacted wisdom tooth extraction.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2020; 32: 237-240.	Original Article

小計3件  
計145件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 手順書の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 名古屋市立大学における医学系研究に係わる実施要綱（令和3年7月30日）</li><li>・ 名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会規程（令和3年7月30日）</li><li>・ 名古屋市立大学大医学系研究倫理審査委員会（IRB）標準業務手順書（令和3年7月30日）</li><li>・ 名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会（IRB）事務局にかかる標準業務手順書（令和3年7月30日）</li></ul> <p>名古屋市立大学において行われる医薬品、医療機器、再生医療等製品などの臨床試験、臨床研究及びその他の生命科学・医学系研究（以下「研究」という。）を実施するために必要な事項を「実施要綱」で定め、「医学系研究倫理審査委員会規程」を制定し、研究の実施の適否その他の事項を調査、審議及び検討を行っている。なお、委員会の運営においては、「医学系研究倫理審査委員会（IRB）標準業務手順書」にて運営に関する手続き及び記録の保存方法等の詳細を定め、「医学系研究倫理審査委員会（IRB）事務局にかかる標準業務手順書」にて事務局の業務内容を定めている。</p>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年13回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>大学として利益相反の指針を示す「利益相反マネジメントポリシー」のもと、「利益相反マネジメント規程」及び「大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会規程」を制定し、毎年各教員に対して利益相反に関する自己申告書の提出を義務付け、必要に応じ適宜ヒアリングを行っている。また、利益相反に関する専門的事項について調査・審議するため、全学的な組織として外部専門家を含めた利益相反委員会を設置している。</p> <p>なお、医学研究等にかかる利益相反に関しては、医学研究科内に大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会を設置し、臨床研究実施前の事前申告、毎年1回の定期申告に基づいて適切な</p>	

管理を行っている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>「臨床研究実施セミナー（10回/年）」のうち、上記に合致する内容の開催状況は以下の5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「本院における臨床研究の手続き等について」 2020年7月8日開催 参加者数：133名</li> <li>・ 「本院における臨床研究の手続き等について」 2020年7月21日開催 参加者数：100名</li> <li>・ 「臨床研究法について」 2020年9月14日開催 参加者数：63名</li> <li>・ 「臨床研究・治験と倫理」 2020年10月2日開催 参加者数：35名</li> <li>・ 「神経筋疾患に対する医師主導治験の経験」 2021年3月10日開催 参加者数：29名</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

## (様式第4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 1 研修の内容

診療科ごとに各領域の専門医取得を目指す専門的な研修を実施している。また、診療科部長又は部長代理を研修統括者とした指導体制を整備し、目標、指導体制、診療実績、連携施設等を含めた研修プログラムをホームページで明示している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	86.8人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
兼松 孝好	総合内科・総合診療科	部長代理	28	
片岡 洋望	消化器内科	部長	32	
林 香月	肝・膵臓内科	部長	25	
新実 彰男	呼吸器・アレルギー内科	部長	36	
難波 大夫	リウマチ・膠原病内科	部長	27	
大手 信之	循環器内科	部長	40	
田中 智洋	内分泌・糖尿病内科	部長	23	
飯田 真介	血液・腫瘍内科	部長	34	
松川 則之	脳神経内科	部長	33	
濱野 高行	腎臓内科	部長	23	
瀧口 修司	消化器・一般外科	部長	30	
中西 良一	呼吸器外科	部長	36	
須田 久雄	心臓血管外科	部長代理	36	
近藤 知史	小児外科	部長	37	
遠山 竜也	乳腺外科	部長	32	
村上 英樹	整形外科	部長	28	
杉浦 真弓	産科婦人科	部長	36	
齋藤 伸治	小児科	部長	36	
小椋 祐一郎	眼科	部長	41	
岩崎 真一	耳鼻いんこう科	部長	29	
鳥山 和宏	形成外科	部長	32	
森田 明理	皮膚科	部長	32	
安井 孝周	泌尿器科	部長	27	
林 祐太郎	小児泌尿器科	部長	36	
明智 龍男	精神科	部長	30	
芝本 雄太	放射線科	部長	41	
祖父江 和哉	麻酔科	部長	28	
間瀬 光人	脳神経外科	部長	36	
渋谷 恭之	歯科口腔外科	部長	32	
植木 美乃	リハビリテーション科	部長	24	
稲垣 宏	病理診断部	部長	37	
笹野 寛	救急科	部長	34	
井上 貴子	臨床検査科	部長代理	23	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
様式4-2別紙 参照
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容  (1) 災害対策講演会 年1回 eラーニング開催  2021年1月19日～3月26日 810名受講  (2) 児童虐待防止講演会 第1回 eラーニング開催  2021年3月30日～2021年4月30日開催 1119名受講完了  (3) コンプライアンス・ハラスメント講演会 年1回開催  2021年 3月3日開催 58人参加  (4) 保険診療に関する講演会 年2回開催  ①2020年10月6日～2020年10月23日（資料閲覧） 回覧先 1,948名  ②2021年3月10日～2021年3月31日（eラーニング）713名参加  (5) 個人情報保護研修会 年1回開催  2020年3月13日～3月31日（eラーニング）1,312名参加
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
様式4-2別紙 参照

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

様式4-2 別紙

【看護部】

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修	研修の名称	研修の主な内容 (名称から読み取れる場合は記載不要です)	研修の期間 (開催日)	実施回数 (合計)	参加人数	対象職種	担当部署
① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況	人工呼吸器セミナー (V60)	V60の取り扱い・実技演習	2020/8/3 11/4 2021/2/3	3	105	看護師	ME・看護部
	人工呼吸器セミナー (トリロジー)	トリロジーの取り扱い・実技演習	2020/7/30 8/25 9/24 10/27 11/26 12/16 1/18 2021/2/25 3/23	9	589	看護師	ME・看護部
	がん看護アドバンスフォローアップ	緩和ケア看護能力の確立	2021/2/15	1	5	看護師	看護部
	人工呼吸器装着中の患者の看護	人工呼吸器の取り扱い方法、装着中の看護のポイントなど		1	10	看護師	看護部
	看護師特定行為研修		令和2年10月1日から令和3年9月24日まで	1		看護師	医学・病院管理部教育研究課 医療人育成係

様式4-2 別紙

【リハビリテーション技術科①】

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に 対する研修	研修の名称	研修の主な内容 (名称から読み取れる場合は記載不要で す)	研修の期間 (開催日)	実施回数 (合計)	参加人数	対象職種	担当部署
③ 他の医療機関に所属する医療関係職 種に対する研修の実施状況	第9回桜山リハビリテーション研究会	関節リウマチの最新治療とフレイル対 策 運動による呼吸困難を考える 心臓リハビリテーションは最先端の心 血管治療法	2020/10/31	1	97	医師・看護師・ 理学療法士・作 業療法士・言語 聴覚士	リハビリテー ション科・技術 科
	第10回桜山リハビリテーション研究会	・使われる装具、使いたい装具 ・成人期を見据えた脳性麻痺・二分脊 椎のリハビリテーション診療	2021/2/6	1	45	医師・看護師・ 理学療法士・作 業療法士・言語 聴覚士	リハビリテー ション科・技術 科

## 理学療法士

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

2020年度 学生臨床実習実績 13名（7校）

**中部リハビリテーション専門学校**

1名 2020.7.27-2020.8.7 (研修内容：理学療法技術全般)

**国立病院機構東名古屋病院附属リハビリテーション学院理学療法学科**

1名 2020.8.3-2020.8.7 (研修内容：理学療法技術全般)

1名 2020.10.1-2020.10.23 (研修内容：理学療法技術全般)

1名 2021.1.25-2021.1.29 (研修内容：理学療法見学)

**名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻**

1名 2020.10.12-2020.11.13 (研修内容：理学療法技術全般)

2名 2021.2.8-2021.2.22 (研修内容：理学療法評価)

**日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻**

1名 2021.1.25-2021.2.21 (研修内容：理学療法評価)

1名 2021.1.18-2021.1.24 (研修内容：理学療法見学)

**名古屋学院大学リハビリテーション学部理学療法学科**

1名 2021.2.1-2021.2.13 (研修内容：理学療法評価)

1名 2021.2.22-2021.2.27 (研修内容：理学療法見学)

**愛知医療学院短期大学作業療法学科**

1名 2020.6.8-2020.7.30 (研修内容：作業療法技術全般)

**藤田医科大学**

1名 2020.7.27-2020.7.30 (研修内容：作業療法技術全般)

様式4-2 別紙

【臨床検査技術科】

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修	研修の名称	研修の主な内容 (名称から読み取れる場合は記載不要です)	研修の期間 (開催日)	実施回数 (合計)	参加人数	対象職種	担当部署
① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況	第12回 輸血講演会 (e-ラーニング)	特殊製剤を含む輸血製剤の取り扱い、依頼条件、生物製剤に関連する規定等	2020年11月30日～12月28日	1	1,042	院内全職種	輸血細胞療法部 臨床検査技術科 (輸血検査)
	中検勉強会 (血液検査)	昨年度経験した他院との骨髄像カウント不一致例について	2020年10月15日	1	56	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会 (病理検査)	液状化細胞診の導入について	2020年11月19日	1	58	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会 (検査部長)	臨床検査技師が行う研究	2020年12月1日	1	51	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会 (輸血検査)	輸血検査における偽陽性反応の原因と追加試験について	2021年2月18日	1	49	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	中検勉強会 (生理検査)	心臓弁膜症におけるエコー図検査について	2021年3月18日	1	46	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
	第1回 感染対策講演会 (e-ラーニング)	新型コロナウイルス感染症に関する検査について、特定抗菌薬の追加～キノロン系薬について、標準予防策について	2020年6月22日～7月27日	1	1515	院内全職種	感染制御室
	抗菌薬適正使用支援講演会 (e-ラーニング)	2020年菌血症フィードバック、実診療に役立つ経口セフェム薬の使い方について	2021年1月28日～2月19日	1	1134	院内全職種	感染制御室
	SARS-CoV-2 RNA抽出方法とLightCycler480 IIを用いた解析研修	新型コロナウイルスを検出する検査方法を習得し、病院としての責務を果たす	2020年4月6日～5月15日	約20	5	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
② 業務の管理に関する研修の実施状況	リスクマネジメント勉強会	実際のインシデント事例をもとに対策、解決策について検討	2020年6月16日 2021年12月1日	2	76 54	臨床検査技師	中央臨床検査部 臨床検査技術科
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	2020年度 全国大学病院輸血部会議 (WEB開催)	技師研究会 (希釈式自己血輸血の運用に関する調査報告)	2020年10月22日	1回	227	臨床検査技師、医師	輸血細胞療法部 臨床検査技術科 (輸血検査) ※当番校：三重大
	学びなおし講座「感染症診療・感染対策 Up to date」	院内感染対策における微生物検査技師の役割について	2020年4月14日、2020年6月23日	2	17	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士	感染制御室

## 診療放射線技師①

①医療機器の安全使用のため、高度管理医療機器研修を実施（診療放射線技師対象）

研修の名称	高度管理医療機器研修会
研修の主な内容	高度管理医療機器である高エネルギーX線発生装置（リニアック・トモセラピー・Radixact）と密封小線源放射線治療装置（RALS）における装置の特徴・安全使用及び故障や緊急時の対応
研修の期間・実施回数	第1回 2020/4/23 第2回 2020/10/7
研修の参加人数（診療放射線技師）	第1回 46名（受講または配布資料の閲覧） 第2回 46名（受講または配布資料の閲覧）

様式4-2 別紙

診療放射線技師②

②業務の管理に関する研修として下記の研修会を主催・実施

No	日付	研修名	研修内容	講師	参加人数
1	4月23日	高度管理医療機器研修 スキルアップのための勉強会	高度管理医療機器研修 線量管理について	名古屋市立大学病院 診療技術部放射線技術科 友田 達伸 名古屋市立大学病院 診療技術部放射線技術科 渡辺 聖太	25
2	8月5日	スキルアップのための勉強会	最新AngioCTシステムのご紹介	キヤノンメディカルシステムズ株式会社	21
3	8月14日	危機管理研修	CT造影検査におけるアナフィラキシーショックシミュレーション	名古屋市立大学病院 看護部 金澤 伽織 先生	20
4	9月15日	危機管理研修	CT造影検査におけるアナフィラキシーショックシミュレーション	名古屋市立大学病院 看護部 金澤 伽織 先生	16
5	11月25日	Live配信シンポジウム	肝の画像診断 -偽陰性の回避	がん研有明病院 画像診断部 上田 和彦 先生	12
6	12月9日	スキルアップのための勉強会	公立8大学連絡協議会報告	名古屋市立大学病院 診療技術部放射線技術科 大橋 一也	17
7	1月28日	スキルアップのための勉強会 スキルアップのための勉強会	Philips最新血管撮影装置 Azurion7のご紹介 DigitalDiagnost C90がもたらすClinical Benefit	株式会社フィリップス・ジャパン 株式会社フィリップス・ジャパン	15
8	2月3日	スキルアップのための勉強会 Live配信シンポジウム	SIEMENS SOMATOM Forceの紹介と画質評価 イオメロン350/135 mlの使いこなし術	名古屋市立大学病院 診療技術部放射線技術科 伊藤 菜る美 新潟大学 医歯学総合病院 診療支援部 能登 義幸 先生	24
9	2月9日	スキルアップのための勉強会	整形手技に適したエックス線透視装置と、その最新技術について	日立製作所 ヘルスケア中部・北陸	16
10	2月24日	スキルアップのための勉強会 スキルアップのための勉強会	NBC災害・局地災害時の放射線技師に求められる初動について 放射線サーベいの基礎知識 -CBRNE災害時における初動対応-	名古屋市立大学病院 診療技術部放射線技術科 加藤 勝也 名古屋市立大学病院 診療技術部放射線技術科 江坂 高峰	21
11	3月2日	スキルアップのための勉強会 スキルアップのための勉強会	改正電離放射線障害防止規則等について 富士フィルム放射線部門最新システムの紹介	名古屋市立大学病院 診療技術部放射線技術科 友田 達伸 富士フィルムメディカル株式会社	27

## 診療放射線技師③

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

2020年度 学生臨床実習スケジュール

鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 放射線技術科学科 (研修内容：放射線技術全般) 1名 2020.7.1～2020.9.11
鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 放射線技術科学科 (研修内容：放射線技術全般) 1名 2020.8.3～2020.9.1
藤田保健衛生大学 医療科学部 放射線学科 (研修内容：放射線技術全般) 59名 2020.12.14～2020.2.22
岐阜医療科学大学 保健科学部 放射線技術学科 (研修内容：放射線技術全般) 2名 2020.6.15～2020.7.28
東海医療技術専門学校 診療放射線科 (研修内容：放射線技術全般) 3名 2020.7.1～2020.9.30

新型コロナウイルス感染症のため中止

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 間瀬 光人	
管理担当者氏名	事務課長 浅野 郁一	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	事務課
		各科診療日誌	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		処方せん	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		手術記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		看護記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		検査所見記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		エックス線写真	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		紹介状	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	事務課、総務課
		高度の医療の提供の実績	事務課、医事課、診療科等
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務課、教育研究課、診療科等
		高度の医療の研修の実績	事務課、教育研究課
		閲覧実績	事務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課、地域医療連携室
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
掲げる事項	規則第一條の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部、医療安全管理室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部、医療安全管理室
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学室、医療安全管理室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学室、医療安全管理室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	事務課、医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 地域医療連携室 医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室、医療安全管理室
		職員研修の実施状況	総務課 事務課 教育研究課 中央臨床検査部 中央放射線部 薬剤部 臨床工学室 医療安全管理室 感染制御室 臨床研究開発支援センター 看護部 医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	薬剤部 臨床工学室 医療安全管理室、 教育研究課
管理者が有する権限に関する状況	総務課、財務課、事務課、経営課、教育研究課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制	総務課、監査室、事務課		

	の整備状況		
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課、事務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	事務課長 浅野 郁一		
閲覧担当者氏名	事務係長 大竹 秀幸		
閲覧の求めに応じる場所	事務課事務係		
閲覧の手続の概要			
記録の閲覧に関する責任者、担当者及び閲覧の求めに応じる場所を定め、閲覧の求めに応じる場所の入り口に掲示している。閲覧の求めがあった際は、閲覧責任者の許可のもと、閲覧担当者にて諸記録の公開を行う。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：（別紙01を参照） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</li> <li>4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> <li>9. 医療安全推進のための外部からの監査・評価に関する基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容：（別紙02を参照） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること                      なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。</li> <li>(2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること</li> <li>(3) 医療事故等の公表に関すること</li> <li>(4) その他医療に係る安全管理に関すること</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年10回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：（別紙03を参照） <ul style="list-style-type: none"> <li>新規採用者を対象に新規採用者研修会</li> <li>中途採用者を対象に中途採用者研修会を年3回実施</li> <li>医薬品管理研修会として麻薬講習会を年1回実施</li> <li>全職員を対象に医療事故防止講演会及び倫理研修会を各年1回ずつ実施</li> <li>重大事件事例の周知徹底を図る危機管理研修会を年1回実施</li> <li>医師事務作業補助者を対象に医師事務作業補助者研修を年2回実施</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有 ・ 無 )
  
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ リスクマネジメントマニュアルの定期的な見直し ( 追録 ・ 修正 )
  - ・ 安全管理に関する自己点検評価報告書の策定 ・ まとめ
  - ・ 事故収集による分析 ( 定量および定性分析 ) ・ 対策 ・ 実施
  - ・ リスクマネジメントニュースの発行
  - ・ eラーニングの実施
  - ・ 院内医療安全巡視
  - ・ 医療安全全国共同行動参加にてワーキング活動
  - ・ 暴力対策の実施

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>1 院内感染対策に関する基本的考え方 患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、従事者（病院での業務に従事する者）全員に指導・教育を徹底する。また、最新情報に基づき現行の感染対策を常に評価し改善していく。</p> <p>2 院内感染対策のための組織に関する基本事項</p> <p>3 院内感染対策のための従事者に対する講習に関する基本方針</p> <p>4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</p> <p>5 感染発生時の対応に関する基本方針</p> <p>6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</p> <p>7 本指針の周知ならびに見直し及び改訂</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>感染対策委員会は、院内における感染症の感染予防対策に関する次の事項について審議し、方針を決定する。</p> <p>1 感染防止対策マニュアルの策定及び変更</p> <p>2 全職員を対象とした感染防止教育と啓発</p> <p>3 各職種、各部門の予防対策に関し、必要と思われる事項</p> <p>4 職業感染予防の策定</p> <p>5 院内感染発生時の改善策について病院職員への周知</p> <p>6 その他院内感染に関する重要事項</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 18 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>1 院内感染対策講演会 第1回 6月22日～7月27日eラーニング 「新型コロナウイルス感染症に関する検査について」「特定抗菌薬の追加～キノロン系薬～、血液培養オーダ手順の変更」「再確認しよう！医療現場における標準予防策」 第2回 10月28日講演（11月27日～1月31日eラーニング）「COVID-19の診療と感染対策」</p> <p>2 抗菌薬適正使用支援講演会 1月18日～2月19日eラーニング 「2020年菌血症フィードバック」「実診療に役立つ経口セフェム薬の使い方」</p> <p>3 新規採用者研修</p>	

4月1日「新型コロナウイルス感染症対策」「院内感染対策に関する講義と演習」

4 中途採用者研修

6月～2月の1回/月（9月、1月を除く）計7回

「医療施設での感染症対策」

「医療現場における手指衛生、個人防護具の着脱、血液曝露防止対策」

5 その他

医師事務補助者研修 6月25日、1月13日

清掃担当者研修 8月24日

6 NCU Infection Seminar

第62回 9月9日 「抗菌薬適正使用の推進：施設内優先度と実践について」

第63回 11月11日 「インフルエンザ～疫学・診断・治療～2020」

第64回 1月13日 「COVID-19の感染対策」

第65回 3月10日 「カテーテル関連血流感染症対策」

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・ 病院における発生状況の報告等の整備 (  有 ・ 無 )

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- ・ 感染制御室を中心とした感染対策チーム（ICT）に、微生物検出状況、現場での感染症状を呈する患者の状況が報告される。ICTは横断的活動の権限をもって、状況確認、情報収集、対策の検討をし、現場へ適切な指導・助言をしている。
- ・ 微生物カンファレンスや抗菌薬適正使用支援チーム（AST）により院内の分離菌発生と薬剤感受性の把握をし、耐性菌等に対する診療支援や感染対策の分析・検討をしている。2020年度の微生物カンファレンスは52件、血液培養カンファレンスは1405件（新規631件、継続774件）行った。
- ・ ASTは、抗菌薬の使用動向を監視し適正使用に向けた診療支援を行っており、2020年度は早期モニタリング1613件、長期モニタリング225件行った。
- ・ ICTにより現場の環境ラウンドを実施（部署別ラウンド51部署、目的別ラウンド281部署）し、感染対策上の問題の早期改善に努めている。
- ・ 感染対策や感染症診療・抗菌薬使用に関するコンサルテーションについて、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師が対応し、診療支援や部署の感染対策の改善につなげている。2020年度は2377件に対応した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>新人看護師向け薬剤研修会（2回）</p> <p>① 令和2年4月10日（金） 9時00分～ 9時50分（病院大ホール）</p> <p>② 令和2年4月13日（月） 9時00分～ 9時50分（病院大ホール）</p> <p>内容：管理が必要な医薬品・与薬時の注意点・薬剤師による情報提供など</p> <p>医薬品安全管理講習会（1回）</p> <p>令和2年7月11日（木） e-ラーニングにて実施</p> <p>内容：「麻薬の取り扱いについて」麻薬管理担当薬剤師</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>&lt;医薬品の安全管理の業務内容&gt;</p> <p>〔1〕 医薬品安全管理責任者（薬剤部長）</p> <p>医薬品安全管理責任者は、医薬品の安全使用のための研修の実施、医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び手順書に基づく業務の実施、医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集を行い医薬品に関わる安全確保に努める。</p> <p>〔2〕 医薬品安全管理実施担当者（医薬品情報係長）</p> <p>医薬品安全管理実施担当者は、医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知の状況の確認、未承認等の医薬品の使用に対し、当該未承認等の医薬品の使用の状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果共有を行う</p> <p>〔3〕 医薬品担当者（各部門の医師、看護師、薬剤師）</p> <p>医薬品担当者は、医薬品安全管理のための業務手順書に基づいて業務が確実に実施されていることを把握し、適切に行われていない場合には改善、指導を行う。</p> <p>&lt;医薬品の安全管理の項目&gt;</p> <p>1. 薬剤部の業務については『薬剤部業務マニュアル（新病院総合マニュアル 第8章 薬剤部門）』に従う。</p> <p>2. 医薬品の採用については『薬事委員会規約』及び『名古屋市立大学病院薬事委員会運営申し合わせ事項』に従う。</p>	

3. 薬剤部における医薬品の管理については『薬品管理業務マニュアル』、『調剤内規』、『調剤薬補充・管理マニュアル』に従う。病棟・外来における医薬品の管理については『各部門の薬品担当者による医薬品適正使用状況の管理について』に従う。毒薬、向精神薬（第2種）、麻薬についてはそれぞれ『毒薬管理手順書』、『第2種向精神薬・毒薬（筋弛緩薬）管理マニュアル』、『麻薬施用取扱要領』に従う。
4. 病棟・部門への医薬品の供給については『薬品管理業務マニュアル』、『各部門の薬品担当者による医薬品適正使用状況の管理について』に従う。
5. 外来患者への医薬品の供給については『調剤内規』および『薬剤投与前・中・後の観察マニュアル』に従う。
6. 入院患者への医薬品の投与については『与薬に関するマニュアル（看護手順 8. 与薬の看護技術）』および『薬剤投与前・中・後の観察マニュアル』に従う。
7. 入院患者への医薬品の情報提供については『病棟業務マニュアル』に従う。
8. 医薬品情報の収集・管理・提供については『医薬品情報管理マニュアル』に従う。
9. 他の医療機関・調剤薬局との連携については『院外薬局から送られた後発医薬品変更FAXの管理（新病院総合マニュアル 第19章 地域医療連携センター）』、『病棟業務マニュアル』および『薬薬連携のための地域の薬剤師会との検討会について』に従う。
10. 抗がん剤の管理・調製については、『抗がん剤調製マニュアル』および『抗がん剤レジメン確認マニュアル』に従う。
11. 感染対策については、『抗菌薬・抗真菌薬適正使用ガイドライン』に従う。
12. 中心静脈栄養（TPN）調製については、『高カロリー輸液（TPN）調製内規』に従う。
13. 入院時の持参薬については、『持参薬確認・報告マニュアル』および『入院支援・業務内容（新病院総合マニュアル 第19章 地域医療連携センター）』に従う。
14. 危険薬の定義については、『ハイリスク薬取り扱いマニュアル』に従う。
15. 処方せんの記載方法については、システム操作マニュアル 第6章 オーダリングツールの『6.1 処方オーダー』および『6.7 注射オーダー』に従う。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (  有 ・  無 )

1. 未承認薬

医薬品情報管理係が病棟担当薬剤師（医薬品担当者）と連携して情報収集および管理を実施している。なお、院内製剤の場合は、製剤担当者が窓口となる。

周知については、情報誌や病院ニュース等による情報提供を行っている。また、特に重要な情報については病棟担当薬剤師による個別情報提供を行う。

## 2. 適応外使用薬

医薬品情報管理係が病棟担当薬剤師（医薬品担当者）と連携して情報収集および管理を実施している。

周知については、情報誌や病院ニュース等による情報提供を行っている。また、特に重要な情報については病棟担当薬剤師による個別情報提供を行う。

## 3. 禁忌薬

医薬品情報管理係が病棟担当薬剤師（医薬品担当者）と連携して情報収集および管理を実施している。

周知については、情報誌や病院ニュース等による情報提供を行っている。また、特に重要な情報については病棟担当薬剤師（医薬品担当者）による個別情報提供を行う。

## 4. その他の情報（添付文書の情報、関係機関等からの情報）の収集

医薬品情報管理係が製薬メーカー担当者等から添付文書改訂情報を入手する。新薬等の場合は詳細情報収集のため当該製薬メーカーからヒアリングを実施したり、PMDAメディナビ・医療情報データベース（MICROMEDEX）等を用いたりして情報収集を行う。

また、医薬品医療機器総合機構HPの添付文書情報を定期的にダウンロードして電子カルテシステム上で提供している。

### ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：

以下の院内製剤の使用を開始した。

アトロピン点眼0.25%	： 検査時の散瞳用
SADBE液	： 円形脱毛症の治療
DPCP液	： 円形脱毛症の治療

### ・ その他の改善のための方策の主な内容：

#### 1. 医薬品適正使用のための注意喚起

薬事委員会において、本院で発生した有害事象についての報告および再発防止対策の周知を適宜実施している。令和2年度は8薬品につき11件の有害事象報告があり、うち2件がPMDAに報告された。

#### 2. 医療安全全国共同行動への取り組み

院内セーフティマネージャーによる医療安全全国共同行動ワーキンググループ活動にて「術前中止薬のルール作り」という目標で取り組みを行った。医師・薬剤師・看護師等の多職種による検討を行い、以下の点について院内の合意を得た。

- 術前中止薬に関するエラーについては、服用薬の情報や中止/継続の判断などのスタッフへの伝達漏れや患者の理解不足が主要な原因であった。
- 対策として服薬情報や中止/継続の指示などについてカルテ内の記載場所を統一し、全スタッフが共有しやすい環境を整える必要がある。
- また患者が理解不足とならないように、医師や薬剤師からの説明を徹底する枠組みの構築が必要である。

#### 3. 免疫チェックポイント阻害薬の副作用マネジメント

免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象（irAE）の早期発見を目的として、化学療法部を中心に投与時の必須モニタリング項目を定め、確認の徹底を図っている。

4. 内服抗がん剤使用患者に対する薬剤師外来

平成27年9月より、内服抗がん剤使用開始患者を対象とした薬剤師外来を開始した。対象は「外来にて開始する内服抗がん剤処方（院内、院外処方ともに）」とし、医師からの依頼を受け薬剤師が面談を行う形式とした。令和2年度の実施件数は367件（注射抗がん剤指導が276件、内服抗がん剤件数が91件）であった。

5. 連携充実加算

令和2年11月より、連携充実加算の算定を開始した。医師の指示に基づき薬剤師が副作用モニタリング及び服薬指導を実施し、その内容を電子カルテの文書テンプレートにて情報共有用に記載した後、患者にかかりつけ薬局への提出をお願いしている。薬局からの返信についてはFAXを電子カルテに取り込むことで共有している。令和2年度の実施件数は160件であった。

6. 患者サポートセンターでの持参薬確認

これから入院される方への案内と入院当日の受付、入院時の持参薬確認を集約して一か所で行う「患者サポートセンター」を設置し、持参薬管理を目的とした薬剤師による面談を全入院予定患者で実施している。薬剤師による面談は入院時だけでなく、入院決定日にお薬手帳などの情報をもとに術前中止薬を把握することを目的とする「入院前の服用薬確認」も実施されており、これらの運用により持参薬の服用状況および術前休止薬の確認が実施されるため、院内全体での持参薬に関する情報の共有・安全管理が可能となった。令和2年度の服用薬確認件数は、入院時の服用薬確認が7550件、入院前の服用薬確認が5210件であった。

7. 薬薬連携の取り組み

薬薬連携のための地域の薬剤師会の薬剤師との検討会を定期的を実施して、疑義照会事例・新規採用薬情報・がん地域連携などについて意見交換を行っている。

2020年6月15日（月） 第1回薬薬連携協議会（メール会議）

2020年9月14日（月） 第2回薬薬連携協議会（メール会議）

2020年12月14日（月） 第3回薬薬連携協議会（ZOOM会議）

2021年3月15日（月） 第4回薬薬連携協議会（ZOOM会議）

なお、例年実施してきた地域保険薬局薬剤師を対象とした吸入指導講習会は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。

8. 部門ごとの医薬品管理者の選定

部門ごとに医師・看護師・薬剤師の3者の医薬品管理者を選定し、医薬品適正管理（定数医薬品の見直しを含む）を実施している。さらに薬剤師の医薬品管理者からは、毎月発行の「医薬品情報誌」を用いた医師、看護師への情報提供も行っている。平成23年度からは部門における医薬品管理の問題点の収集と情報共有を目的として、医薬品管理者（医師・看護師・薬剤師）による3者ミーティングも実施している。3者ミーティングの記録内容については定期的に医薬品安全管理責任者が内容を把握している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年292回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい医療機器の導入時の職員に対する取扱研修</li> <li>・ 人工心肺装置、人工呼吸器、保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置等の特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する職員に対する取扱研修</li> <li>・ 新規採用職員に対するシリンジポンプ、輸液ポンプ等の医療機器の取扱研修及び医療機器安全管理研修、職員に対する随時研修。</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工呼吸器、除細動器、保育器等のMEセンター中央管理機器については、使用后MEセンターに返却の都度、もしくは一定の点検周期毎に、保守点検を実施している。</li> <li>・ 診療用高エネルギー放射線発生装置などその他の医療機器については、業者による定期点検を実施している。</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る院内のインシデント情報、メーカーから直接寄せられる安全性情報、医薬品医療機器総合機構から発進される情報等については、医療安全管理室へ一元的に集約され、同室及び臨床工学室が中心となり各部署への情報発信及び対策を実施している。</li> <li>・ 医療機器の安全使用の観点から、中央管理する機器については、標準化を図っている。</li> <li>・ 医療機器の使用に係る医療事故の発生を防ぐことを目的として作成した医療機器使用マニュアルの適宜見直しを行った。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師）・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は、医療安全管理委員会委員長として委員会を運営し、病院全体の安全管理体制の確保の徹底を図るとともに、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括し、安全管理に関する病院全体の責務を担う。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> （7名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>1. 院内の医薬品使用状況の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 医療安全管理室にて院内での医薬品使用状況についての疑問点を把握した場合、医療安全管理室の薬剤師（主査）から医薬品安全管理実施担当者（医薬品情報係長）に報告される。</li> <li>➢ 医薬品の発注・購入を担当している業務係長は医薬品の購入状況を精査し、通常と異なる使用状況等の有無について月1回程度確認し、疑問点がある場合は医薬品安全管理実施担当者に連絡する。</li> <li>➢ 調剤を担当する薬剤師が調剤時に通常とは異なる使用状況等の疑問を持った場合、医薬品安全管理実施担当者へ情報を伝える。</li> <li>➢ 医薬品担当者（各部門の医師、看護師、薬剤師）は、各部門での医薬品の使用状況に係る情報収集を行い、適宜医薬品安全管理実施担当者へ伝達を行う</li> </ul> <p>2. 各種情報の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 1.で収集された情報に対して、医薬品安全管理実施担当者は報告者および医薬品担当者と協力して使用状況の詳細な把握を行う。</li> <li>➢ また、医薬品安全管理実施担当者は、緊急安全性情報・安全性速報などの安全性情報の内容を確認し、必要に応じて院内の医薬品の使用状況を把握する。</li> </ul> <p>3. 医薬品安全管理責任者への報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 医薬品安全管理実施担当者は必要に応じて、把握した医薬品の使用状況情報について医薬品安全管理責任者（薬剤部長）に報告を行う。</li> <li>➢ 医薬品安全管理責任者はその報告をもとに、院内への情報周知・運用上の提案・オーダ時の制御などの対策を検討し実施する。</li> </ul> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>1. 処方した医薬品が未承認等に該当するか否かの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 医薬品担当者は、各部門での未承認等の医薬品の使用に係る情報収集を行い、適宜医薬品安全管理実施担当者へ伝達を行う。</li> <li>➢ 調剤を担当する薬剤師が、調剤時に適応外使用等の疑問を持った場合、該当部門の医薬品担当者や医薬品安全管理実施担当者へ情報を伝える。</li> </ul>	

<p>➤ 診療報酬審査委員会での査定情報については、病棟主査および医薬品担当者が把握し、必要に応じて医薬品安全管理実施担当者に情報を伝える。</p> <p>2. リスク検討の有無、処方の妥当性等の確認</p> <p>➤ 医薬品安全管理実施担当者は必要に応じて、1. で収集された医薬品の使用状況情報について医薬品安全管理責任者（薬剤部長）に報告を行う。その際、国内承認の有無、投与経路、診療ガイドラインへの記載の有無、文献報告のエビデンスレベルなどをもとに妥当性が検討される。</p> <p>3. 処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理者への報告</p> <p>➤ 医薬品安全管理責任者は検討の内容をもとに、医師に対する確認（代替治療の有無・臨床倫理委員会への申請等）を行う。また、院内への情報周知・運用上の提案・オーダ時の制御などの対策を実施する。</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部医薬品情報係長，職種 薬剤師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>セーフティマネージャーで構成された医療安全全国行動ワーキンググループにおいて、診療録の確認を行う、またインシデントが発生した際、同意書及び診療録にて遵守状況を確認し、該当部門へ個別に指導している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療情報管理委員にてカルテの質的監査を実施している。監査は、「診療記録記載要綱」に基づき、診療記録の記載がされているか確認を行っている。監査結果は、診療情報管理委員会において検討を行い、必要に応じて、委員長及び診療情報管理士より診療科へ指導を行う。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・所属職員：専従（6）名、専任（2）名、兼任（5）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（5）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容： （1）医療安全管理委員会、セーフティマネージャー会議等で用いられる資料及び議事録の作</p>	

成、保存、その他安全管理委員会の庶務に関すること。

- (2) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
- (3) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
- (4) 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
- (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。
- (6) その他医療安全対策の推進に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（12件）、及び許可件数（12件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
  - ・ 診療科の長から申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、申請案件の適否等について審査をおこなう。
  - ・ 審査により高難度新規医療技術の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知し、病院長へ報告する。
  - ・ 高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
  - ・ 高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（44件）、及び許可件数（40件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

- ・診療科の長から申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、申請案件の適否等について審査を行う。
- ・審査により未承認新規医薬品等の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知し、病院長へ報告する。
- ・未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
- ・未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 459 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 115 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- (1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること  
なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。
- (2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること
- (3) 医療事故等の公表に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：岐阜大学医学部附属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：三重大学医学部附属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

新型コロナウイルス感染症の影響により、立入審査は中止となり、書面でのみの審査を実施。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

病院内に、医療安全管理室長を室長として「患者相談室」を設置し、医療内容についての心配や不安等の相談を相談員（看護師や社会福祉士）が受けている。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況（別紙 03 を参照）

新規採用者を対象に新規採用者研修会（R2. 4. 1～7）、中途採用者を対象に中途採用者研修会を年 3 回（R2. 7. 20、R1. 11. 16、R3. 3. 16）実施

医薬品管理研修会として麻薬講習会を年 1 回（R2. 7. 13～8. 16）実施

全職員を対象とした外部講師による講演の医療事故防止講演会（R2. 8. 4～9. 7）及び倫理研修会（R2. 11. 27～12. 25）を各年 1 回ずつ、重大事事故事例の周知徹底を図る危機管理研修会を年 1 回（R3. 3. 15～3. 31）実施

医師事務作業補助者就業前の職員を対象に医師事務作業補助者研修を年 2 回（R2. 6. 25、R3. 1. 22）実施

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

管理者

・ 令和 3 年 1 月 20 日 2020 年度特定機能病院管理者研修  
（主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）

医療安全管理責任者

・ 令和 2 年 10 月 15 日 2020 年度特定機能病院管理者研修  
（主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）

医薬品安全管理責任者

・ 令和 2 年 11 月 11 日 2020 年度特定機能病院管理者研修  
（主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）

医療機器安全管理責任者

・ 令和 2 年 11 月 11 日 2020 年度医療機器安全基礎講習会  
（主催：公益財団法人 医療機器センター）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価の認定「機能種別 一般病院 3」3rdG:Ver. 2.0 平成 30 年 12 月 7 日付け認定。

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況  
名古屋市立大学病院 HP にて公表。

・ 評価を踏まえ講じた措置

#### 1. 画像診断報告書等の確認不足への対策

- ・ 放射線画像診断報告書作成時に「重要」と判断されたものは、アラート一覧画面では黄色の帯状で先頭行に表示。「重要」とする画像診断報告書は、患者にとって重要かつ検査目的以外の（主治医・担当医が予期しない）所見とする。
- ・ 黄色の帯状の画像診断報告書を選択し、「読影レポート参照ボタン」をクリックすると、レポート参照画面が表示される。
- ・ 重要な所見は赤字で表記。
- ・ 放射線画像レポートの閲覧状態が確認できる「画像診断レポート閲覧医サイン機能」を追加。
- ・ 重要所見の見落としを防ぐために、重要所見が赤字で反映されないカルテ記事及びレポートの一覧画面において、レポート内容は表示させず、レポートの本画面を開き確認するようシステムを改善し、周知を行った。

#### 2. 病棟における呼吸器の点検・チェックについて、臨床工学技士の関与の徹底、中央管理すべき医療機器の適用拡大

- ・ 病棟における呼吸器の使用 midpoint 点検部署の拡大。
- ・ 10万円以上で備品シールを添付し納品された医療機器を ME センターで ID シールを添付し、中央管理できるシステムを構築。

#### 3. 同意書の統一化された書式運用、現場の実態に即した立ち会いの在り方や、患者の反応に関する記録の充実

- ・ 統一的な同意書の利用を推進するため、同意書様式の確認を行い、統一様式を使用していない診療科において、同意書監査を実施し統一様式への変更を行った。
- ・ インフォームドコンセント（患者等への重要事項説明時）の立ち会い基準を平成 30 年 6 月に制定。
- ・ IC の立ち会いについて、現状と課題をセーフティーマネージャーが参加する、医療安全共同行動グループで確認し、説明記録等の監査を行った。

#### 4. 「高難度新規医療技術の導入」および「未承認新規医薬品等の使用」の担当する部門ならびに委員会等の組織構成

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人格が高潔で、学識が優れ、かつ、公立大学法人名古屋市立大学中期目標及び当該中期目標を達成するための計画である公立大学法人名古屋市立大学中期計画に掲げる事項について、継続的かつ確実に推進する姿勢及び指導力を有する者</li> <li>2. 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有する者であって、以下の基準を全て満たす者             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 次のいずれかの業務に従事した経験がある者                 <ol style="list-style-type: none"> <li>イ 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者又は医療機器安全管理責任者の業務</li> <li>ロ 医療安全管理に関する委員会の構成員としての業務</li> <li>ハ 医療安全管理に関する部門における業務</li> <li>ニ その他上記に準ずる業務</li> </ol> </li> <li>(2) 医療安全管理業務経験を踏まえ、医療安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者</li> </ol> </li> <li>3. 組織管理能力等の病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力を有している者であって、当院又は当院に準ずる規模の他の病院において、病院長、副病院長、病院長補佐、診療科部長又は中央部門長（これらに準ずる職を含む。）の経験がある者</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 ホームページにて公表 <a href="https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/">https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/</a></li> </ul>	

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法 ホームページにて公表 <a href="https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/">https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/</a></li> </ul>	
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由	

氏名	所属	委員長 (○を付 す)	選定理由	特別の関 係
吉田 和生	名古屋市立大学理事・副学長(経営・危機管理・70周年事業)	○	理事のうち理事長が指名した者 (名古屋市立大学医学部附属病院 院長候補者選考会議規程第3条 第1号による委員)	有・無
飯田 真介	名古屋市立大学医学研究科血液・腫瘍内科学教授 名古屋市立大学病院副院長		医学研究科教授会において構成員のうちから選出された者 (名古屋市立大学医学部附属病院 院長候補者選考会議規程第3条 第2号による委員)	有・無
片岡 洋望	名古屋市立大学医学研究科消化器・代謝内科学教授 名古屋市立大学病院消化器内科部長		病院部長会において構成員のうちから選出された者 (名古屋市立大学医学部附属病院 院長候補者選考会議規程第3条 第3号による委員)	有・無
瀧口 修司	名古屋市立大学医学研究科消化器外科学教授 名古屋市立大学病院消化器・一般外科部長		病院部長会において構成員のうちから選出された者 (名古屋市立大学医学部附属病院 院長候補者選考会議規程第3条 第3号による委員)	有・無
服部 達哉	名古屋市医師会長		理事長が委嘱する学外の有識者 (名古屋市立大学医学部附属病院 院長候補者選考会議規程第3条 第4号による委員)	有・無
岩崎 良平	日本ガイシ株式会社取締役専務執行役員 名古屋市立大学病院医療安全管理委員会委員 名古屋市立大学病院医療安全監査委員会委員		理事長が委嘱する学外の有識者 (名古屋市立大学医学部附属病院 院長候補者選考会議規程第3条 第4号による委員)	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 診療に関すること</p> <p>(2) 病院の規程の制定改廃に関すること</p> <p>(3) 病院の運営方針に関すること</p> <p>(4) 中期目標・中期計画に関すること</p> <p>(5) 予算及び決算に関すること</p> <p>(6) その他病院の運営に関する重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 会議資料の回覧及び電子カルテ共有ファイルサーバーへの掲載を行っている。 必要があれば、個別案件ごとに関係委員会での報告や院内広報誌への掲載等も行い、周知徹底を図っている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</p> <p>・公表の方法 <a href="https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/">https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/</a></p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
間瀬 光人	○	医師	病院長
森田 明理		医師	院長代行・副病院長
飯田 真介		医師	副病院長
明智 龍男		医師	副病院長
松川 則之		医師	副病院長
木村 和哲		薬剤師	副病院長
林 祐太郎		医師	副病院長
村田 佐知子		看護師	副病院長
新実 彰男		医師	病院長補佐
瀧口 修司		医師	病院長補佐
植木 美乃		医師	病院長補佐
戸澤 啓一		医師	病院長補佐
兼松 孝好		医師	診療科部長代理

片岡 洋望		医師	診療科部長
林 香月		医師	診療科部長
難波 大夫		医師	診療科部長
瀬尾 由広		医師	診療科部長
田中 智洋		医師	診療科部長
濱野 高行		医師	診療科部長
中西 良一		医師	診療科部長
須田 久雄		医師	診療科部長
近藤 知史		医師	診療科部長
遠山 竜也		医師	診療科部長
村上 英樹		医師	診療科部長
杉浦 真弓		医師	診療科部長
齋藤 伸治		医師	診療科部長
安川 力		医師	診療科部長
岩崎 真一		医師	診療科部長
鳥山 和宏		医師	診療科部長
安井 孝周		医師	診療科部長
小澤 良之		医師	診療科部長代理
石倉 聡		医師	診療科部長代理
祖父江 和哉		医師	診療科部長
渋谷 恭之		歯科医師	診療科部長
笹野 寛		医師	診療科部長
服部 友紀		医師	診療科部長
井上 貴子		医師	中央部門部長
久保田 英嗣		医師	中央部門部長
稲垣 宏		医師	中央部門部長
小松 弘和		医師	中央部門部長
藤原 圭		医師	中央部門部長
佐藤 慎太郎		医師	中央部門部長
中村 敦		医師	中央部門部長
神谷 武		医師	中央部門部長
杉浦 健之		医師	中央部門部長
赤津 裕康		医師	中央部門部長
山岸 庸太		医師	中央部門部長
田中 基		医師	中央部門部長
野尻 俊輔		医師	中央部門部長
笠井 治昌		診療放射線技師	中央部門部長
藤原 かをる		看護師	中央部門部長
鶴飼 英充		事務	医学・病院管理部長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（・無）

- ・ 公表の方法：病院HPにて公表

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/>

- ・ 規程の主な内容

#### (1) 病院長の人事権について

病院幹部の選任について院長代行、副病院長等、看護部長、診療科部長等の選考規程を制定し、各規程に基づいて選任している。開設者が公立大学法人である当院において、人事における任命権については、法人の長たる理事長が有しているが、病院長は選考の過程で関与する仕組みとなっており、病院長の意思が反映されている。

#### (2) 病院長の予算執行に係る権限について

規定により、病院の予算責任者である病院長が予算に基づき執行することとされている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

#### (1) 院長代行、副病院長及び病院長補佐

森田 明理院長代行  
副病院長（戦略企画・経営管理担当）  
飯田 真介副病院長（診療・医療体制強化担当）  
明智 龍男副病院長（医療の質・安全管理担当）  
松川 則之副病院長（研究担当）  
木村 和哲副病院長（保険診療（薬剤）担当）  
林 祐太郎副病院長（教育担当）  
村田佐知子副病院長（経営・業務管理担当）  
新実 彰男病院長補佐（診療情報管理担当）  
瀧口 修司病院長補佐（手術機能強化担当）  
植木 美乃病院長補佐（労働環境担当）  
戸澤 啓一病院長補佐（医療の質・安全管理担当）

#### (2) 各副病院長及び病院長補佐を補佐する企画スタッフ等

戦略企画室（収益向上策、費用削減策の企画立案等）  
情報発信・広報戦略室（広報戦略立案等）  
診療報酬マネジメント室（診療収入に係る分析、企画立案等）

#### (3) 外部有識者からの意見聴取の機会

経営協議会（病院経営に見識のある外部有識者を含めた  
診療収入の確保及び経費の節減策など病院の経営改善会議）

・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

研修開催日	研修名称	参加者	備考
9/8、9/15、 9/17、9/24、 9/29	令和2年度 労働法講座Ⅱ	事務課職員1名	公益社団法人愛知県労働協会
12/2	第15回 臨床研修病院事務担当者講習会	教育研究課 係長1名 職員3名	公益社団法人卒後臨床研修評価機構

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 監査委員会の開催状況：年2回</li> <li>・ 活動の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療安全に係る会議の運営状況</li> <li>2 インシデント・アクシデントレポートの報告及び対応状況</li> <li>3 医薬品安全管理・医療機器安全管理の実施状況</li> <li>4 医療安全に係る研修の実施状況</li> <li>5 医療監視等における監督官庁からの医療安全に係る指摘事項への対応状況</li> <li>6 他の特定機能病院による立入検査の実施及び対応状況</li> <li>7 その他、医療安全に関すること</li> </ol> </li> <li>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</li> <li>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</li> <li>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</li> <li>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</li> <li>・ 公表の方法：             <ul style="list-style-type: none"> <li>病院ホームページにて公表している</li> <li><a href="https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/">https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/</a></li> </ul> </li> </ul>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中村 勝己	後藤・太田・立岡 法律事務所所属 弁護士	○	法律に関する識見を 有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
宮本 忠壽	知多厚生病院名 誉院長		医療安全に関する業 務に従事した経験を 持つ医師	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
小島 一彦	名古屋学芸大学 特任教授		医療を受ける者の立 場から意見を述べる ことができる者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
岩崎 良平	日本ガイシ株式 会社取締役専務 執行役員		医療を受ける者の立 場から意見を述べる ことができる者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

法人に監査室を設置し、毎年、本学の業務運営及び会計処理の適法性等について、公正かつ客観的に調査及び検証し、その監査結果に基づき助言、提言を行うことにより、本学の健全な運営に資することを目的とした「内部監査」及び法人の業務運営及び会計処理の適正を図ることを目的とした「監事監査」を実施している。監査は、年次計画に基づいて実施され、監査の結果、改善のための対策、措置等を講じる必要があると認めるときは、速やかに当該対策、必要な措置等を講じることとされている。

・ 専門部署の設置の有無 (  ・ 無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  ・ 無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  ・ 無 )

・ 公表の方法：病院HPにて公表  
<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/>

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
 

理事長、副理事長及び理事（内2名外部理事）をもって構成される役員会において、次の事項の審議を行うこととされている。病院長も理事として、役員会に参加し、病院の管理運営状況について随時報告聴取が行われている。

  - (1) 中期目標についての意見（地方独立行政法人法第78条第3項の規定により市長に対し述べる意見をいう。）及び年度計画に関する事項
  - (2) 地方独立行政法人法により市長の認可又は承認を受けなければならない事項
  - (3) 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項
  - (4) 大学、学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項
  - (5) その他役員会が定める重要事項
- ・ 会議体の実施状況（年 11 回）
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（・無）（年 10 回）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（・無）
- ・ 公表の方法：大学ホームページにて公開している。  
<http://www.nagoya-cu.ac.jp/about/operations/rules/index.html>

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 リスクマネジメントマニュアル、職員の心得及び電子カルテへ掲載し、周知している。</li></ul>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>【病院ウェブサイト等】</p> <p>○病院ウェブサイトや、外来で放映している映像情報端末メディネットに、当院のご案内、最新のお知らせ、患者・一般向け、医療関係者向けの情報を掲載している。</p> <p>【院外広報誌】</p> <p>○広報誌「さくらほっとNEWS」を年4回発行し、当院の最新情報やお知らせを患者や地域の住民向けに発信している。広報誌は病院ウェブサイトにも掲載、また、院内の外来に設置したり、院外（近隣病院、地下鉄桜通線桜本町管区駅構内、市内区役所等）に配布している。</p> <p>【その他】</p> <p>○正面玄関と患者サポートセンター入口にデジタルサイネージを設置し、連携医療機関の情報等を提供している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>○診療にあたる際、必要に応じて複数の診療科による合同のカンファランスを実施している。</p> <p>○全診療科の代表者を含む各種委員会を定期的で開催している。</p> <p>○複数の診療科によって組織する「センター」機能を有し、診療科ごとの特性を融合することにより、特色となる診療を実施したり、診療の支援業務や教育・研究業務などを行っている。</p> <p>○医療安全、感染、栄養サポート（NST）、褥瘡等に対して複数の診療科、職種を交えてチームを組み、対策を行っている。</p> <p>○診療連携拠点病院（肝疾患、地域がん）として都道府県における診療ネットワークの中心的な役割を果たす病院である。また、災害拠点病院として地域における災害医療を担っている。</p> <p>○救命救急センターとして24時間高度な医療が提供できるよう、全診療科及び全部門が連携して救急医療のバックアップ体制を整えている。夜間・休日においても、医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、検査技師が待機しており、常時迅速な引継が可能である。</p>	

## 医療の質と安全における理念

1. 安全の確保を医療行為における最大の使命とします。
2. 安全で質の高い医療の提供を実現します。
3. 患者さん中心の医療の提供を実現します。

### 1 医療に係る安全管理のための指針

名古屋市立大学病院（以下、「当院」という）における医療の質と安全を推進するため、本指針を定める。

#### 1. 当院における安全管理に関する基本的考え方

当院は、患者さんの生命を預かる病院として、安全で安心できる質の高い医療を提供する使命がある。特定機能病院として高度な医療の提供や教育を実施する中で、責任体制や役割分担を明確にし、病院全体で医療の質・安全の推進の徹底を図る。

すべての職員が、患者さんを中心とした安全管理を意識し、医療事故防止に取り組んでいく。より安全な医療の提供と患者満足度の向上を目指し、安全に対する意識を高めマニュアルを遵守した改善・改革を進めていくこと安全管理の基本方針とする。

#### 2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項

当院の安全管理体制の確保及び推進のため、副病院長（医療の質・安全管理担当）を医療安全管理責任者として配置し、医療安全管理室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括する。

医療の安全性の確保と適切な医療を提供するとともに、病院機能の向上と運営改善に資するために、医療安全管理室を設置し、医療安全を組織横断的に推進し、適切かつ効率的に事故防止を図り、安全管理を行うものとし、室長（専従の医師）を安全推進指導者とする。

当院全体の医療の質・安全の推進について検討・審議を行う医療安全管理委員会、医療安全管理責任者から任命された各部門の安全推進者（セーフティーマネージャー）を中心に活動する周知徹底機関としてセーフティ

ーマネージャー会議を設置し病院全体で継続的に取り組んでいくものとする。それらの組織、運用についてはそれぞれ別に規程を設ける。

### 3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針

- 1) 医療安全管理委員会は、予め作成した研修計画に従い1年に2回程度の全職員を対象とした医療の質・安全を推進するための研修を定期的実施する。
- 2) 研修は、医療安全の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知徹底することを通じて、職員個々の医療安全意識の向上を図るとともに、当院全体の医療安全を向上させることを目的とする。
- 3) 職員は、実施される研修を受講しなければならない。
- 4) 病院長は、当院で重大医療事故が発生した場合や必要があると認めた場合は、臨時で、報告会を開催し全職員に対して情報を提供する。
- 5) 医療の質・安全を推進するための研修の実施方法としては、外部講師を招聘しての講習会、院内での事例または医療安全取り組み報告会、医薬品安全管理・医療機器安全管理に関する研修会等実施する。

### 4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針

- 1) 医療安全管理の推進に必要な事項を定めた、「リスクマネジメントマニュアル」を作成し、医療事故防止対策に活用する。
- 2) インシデントの報告は、リスクマネジメントマニュアルに基づき医療事故等へ結びつく可能性のある事例を院内から広く集約し、その要因を分析することにより、医療事故等の防止を図るとともに、リスクマネジメントに対する病院全体の意識の高揚を図るものとする。
- 3) 報告された事例は、医療安全管理室でとりまとめ、医療安全管理委員会で事例の把握ならびに原因分析に基づいた防止対策・改善策について審議し、セーフティーマネージャー会議やRMニュースを通じて院内に再発防止策を周知徹底する。
- 4) インシデントレポートは、報告により当事者が不利益を受けないことを担保するために、原則非公開とする。

### 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- 1) 医療事故等が発生した場合は、当院の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。また、当院内のみでの対応が不可能と判断された場合には、遅滞なく公的機関の助言を求めるものとする。
- 2) 患者・家族への説明は、事故発生後、救命措置の遂行に支障を来たさない限り可及的速やかに、事故の状況、現在実施している回復措置、そ

- の見通し等について各担当医・部門長等が誠意をもって正確に説明する。
- 3) 重大医療事故が発生した場合には、発生した事故情報の把握、原因究明、対応策及び再発防止策の検討を速やかに図るため、「重大医療事故報告制度の流れ」に基づき対応する。
  - 4) 対応した職員は、その事実および説明内容を診療録に記録する。
6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針
- 医療の質・安全を推進するための理念をホームページに掲げるとともに、「名古屋市立大学病院医療事故等公表基準」に基づき医療事故等を公表することにより、より透明な、より安全な医療システムを確立し、尊い生命を預かる病院として信頼できる質の高い医療を提供する。
7. 患者からの相談への対応に関する基本方針
- 1) 患者及びその家族から医療に関する相談に対して適切な対応及び情報提供等の支援を行うために、患者相談室を設置する。誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を被らないこと及び患者等の情報の保護のために適切な配慮を講じるものとする。
  - 2) 医療安全に関わる苦情や相談については、医療安全管理委員会やセーフティーマネージャー会議等に詳細に報告し当院の医療安全対策の見直し等に活用する。
8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針
- 1) 医療安全をより推進させるために、「リスクマネジメントマニュアル」は定期的（年1回）及び随時改訂し、その内容を病院全職員へ周知・徹底する。また、医療安全確保体制の見直しを行うとともに、他機関からの情報収集に努め医療安全の改善・推進を図る。
  - 2) 高難度新規医療技術等を用いた医療を提供する場合には、関係法令等遵守し、関係学会による「高難度新規医療技術の導入に当たっての基本的な考え方」やガイドライン等を参考に実施する。
  - 3) 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合には、法令に基づいた部門で評価及び管理を行う。
9. 医療安全推進のための外部からの監査・評価に関する基本方針
- 1) 医療法に基づき外部委員による医療安全に関する監査を年2回、特定機能病院間での医療安全活動に関するピアレビューを年1回実施する。
  - 2) 医療法に基づき医療機関内における事故の発生防止に係る第三者評価を受け、評価及び改善すべき内容を公表し、当該評価を踏まえて必要な対策を行うものとする。

10. 本指針の周知ならびに見直し及び改訂

- 1) 本指針の内容は、医療安全管理委員会を通じて、全職員に周知徹底する。
- 2) 医療安全管理委員会は、少なくとも毎年1回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ検討するものとする。

附 則

本指針は、平成19年12月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成23年4月14日から施行する。

附 則

本指針は、平成26年5月20日から施行する。

附 則

本指針は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成28年7月19日から施行する。

附 則

本指針は、平成29年11月21日から施行する。

附 則

本指針は、平成30年2月20日から施行する。

附 則

本指針は、令和2年2月18日から施行する。

附 則

本指針は、令和3年5月18日から施行し、4月1日から適用する。

## 1 2 医療安全管理委員会設置規程

2016. 9. 30 制定

2020. 7. 1 改訂

### 1 設 置

名古屋市立大学病院（以下「本院」という。）に、本院内で医療に係る安全管理を目的として、名古屋市立大学病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### 2 組 織

- (1) 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって構成する。
- (2) 委員長は、医療安全管理責任者である副病院長（医療の質・安全管理担当）とし、副委員長は、医療安全管理室長とする。
- (3) 委員は、次の各号に掲げる者とする。
  - ア 病院長
  - イ 医薬品安全管理責任者
  - ウ 医療機器安全管理責任者
  - エ 医療放射線安全管理責任者
  - オ 病院部長会で選出された部長 2 名（内科系 1 名、外科系 1 名）
  - カ 病院長が指定する診療科（内科、外科においては医学部の分野単位とする。）及び中央部門から選出された教員 3 名（内科系 1 名、外科系 1 名、中央部門 1 名）
  - キ 感染制御室長
  - ク 看護部長
  - ケ 医学・病院管理部長
  - コ 医事課長
  - サ 医療安全管理室副室長
  - シ 外部有識者 2 名

### 3 審議事項

委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること  
なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。
- (2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること
- (3) 医療事故等の公表に関すること

(4) その他医療に係る安全管理に関すること

#### 4 会 議

- (1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- (2) 委員長に事故がある時は、副委員長がその職務を代行する。
- (3) 委員会は、構成員の2分の1以上の出席がなければ開くことができない。委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。
- (4) 病院長がやむを得ない事由で出席できないときは、院長代行を代理人として出席させ、議決に参加させることができる。
- (5) 委員がやむを得ない事由で出席できないときは、あらかじめ委員長の承認を得た場合に限り、代理人を出席させることができる。なお、代理人を出席させることができる委員は委員長が別に定める。
- (6) 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者に出席を求め意見を聴くことができる。
- (7) 委員会は、月一回程度開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。

#### 5 庶 務

委員会の庶務は、医療安全管理室において行う。

#### 6 その他

この規程に定めることのほか、医療に係る安全管理に関して必要な事項は、委員長が委員会に諮ったうえで定める。

#### 附 則

- 1 この規程は、平成28年9月30日から施行する。
- 2 医療安全管理委員会設置要綱は廃止する。

#### 附 則

- 1 この規程は、平成29年5月16日から施行し、4月1日から適用する。

#### 附 則

- 1 この規程は、平成29年11月21日から施行する。

#### 附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

#### 附 則

- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和2年7月1日から施行する。

## 様式6-2 別紙03 研修会

### 令和2年度 安全管理の体制確保のための職員研修の実績

年月日	研修会名等	対象職員	参加者数	時間	内容
R2. 4. 1～ 4. 7	新規採用者研修会	新規採用者研修 ※看護部+研修医  他職員はeラーニング	283名	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院長訓示・講話 4/2</li> <li>・医療倫理について 4/1</li> <li>・医療安全管理について 4/1</li> <li>・災害対策について 4/2</li> <li>・個人情報保護について 4/2</li> <li>・医療機器の取り扱いについて 4/2</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策 4/1</li> <li>・院内感染対策について 4/1</li> <li>・医薬品安全管理について 4/2</li> <li>・保険診療と診療録の記載について 4/6</li> <li>・病院・部署紹介について</li> </ul>
R2. 4. 1～				-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利益相反マネジメントについて</li> <li>・経営・マネジメントについて</li> <li>・接遇について</li> <li>・BLS講習会</li> </ul>
R2. 6. 25	医師事務作業補助者研修	医師事務作業補助者就業前の職員	3名	1時00分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故防止の基本的な考え方</li> <li>・名古屋市立大学病院の医療安全対策と具体的な対応</li> </ul>
R2. 7. 13～ 8. 16	医薬品安全管理研修会 ※eラーニング開催	全職員	1184名	1時00分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・麻薬の取り扱いについて</li> <li>・第2種向精神薬について</li> </ul>
R2. 7. 20	中途採用者研修会	全職員	23名	1時00分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理について（戸澤室長）</li> <li>・電子カルテ内の安全情報について（水野主幹）</li> <li>・医療機器安全管理について（田島係長）</li> <li>・医薬品安全管理について（早川主査）</li> </ul>
R2. 8. 4～ 9. 7	第一回 医療事故防止講演会 ※eラーニング開催	全職員	1566名	-	患者誤認撲滅に向けてみんなでルールを守りましょう
R2. 11. 27～ 12. 25	倫理研修会 ※eラーニング開催	全職員	1467名	-	事例からひもとく臨床倫理
R2. 11. 16	中途採用者研修会	全職員	34名	1時00分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理について（戸澤室長）</li> <li>・電子カルテ内の安全情報について（水野主幹）</li> <li>・医療機器安全管理について（田島係長）</li> <li>・医薬品安全管理について（早川主査）</li> </ul>
R3. 1. 22	医師事務作業補助者研修	医師事務作業補助者就業前の職員	4名	1時00分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故防止の基本的な考え方</li> <li>・名古屋市立大学病院の医療安全対策と具体的な対応</li> </ul>
R3. 3. 15～ 3. 31	第一回 危機管理研修会 ※eラーニング開催	全職員	1374名	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重大事例報告</li> <li>・医療安全全国共同行動ワーキング活動報告</li> </ul>
R3. 3. 16	中途採用者研修会	全職員	18名	1時00分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理について（戸澤室長）</li> <li>・電子カルテ内の安全情報について（水野主幹）</li> <li>・医療機器安全管理について（田島係長）</li> <li>・医薬品安全管理について（早川主査）</li> </ul>
合計	10回		5956名		

## 様式6-2 別紙04 感染

### I. 名古屋市立大学病院院内感染対策のための指針

#### 1 院内感染対策に関する基本的考え方

患者とその家族、職員、委託職員、学生等院内すべての人々を院内感染から守るための効果的予防及び管理を実践する。

手指衛生をはじめとする標準予防策、あるいは必要に応じて感染経路別予防策を追加しての実践や、抗菌薬の適正使用を推進できるよう、従事者（病院での業務に従事する者）全員に指導・教育を徹底する。

また最新情報に基づき現行の感染対策を常に評価し改善していく。

#### 2 院内感染対策のための組織に関する基本的事項

名古屋市立大学病院における感染を積極的に防止し、院内の衛生管理に万全を期するため、感染対策委員会を置く。【感染対策委員会規約】

#### 3 院内感染対策のための従事者に対する講習に関する基本方針

##### (1) 院内感染対策講習の開催

院内感染対策の意識向上を図るための講習と抗菌薬の適正な使用を目的とした講習を年に2回ずつ開催する。

(2) 毎年4月に、新規採用教職員に対して院内感染対策に関する講習を実施する。

(3) 本院への中途採用者に対して、適宜院内感染対策に関する講習を行う。

#### 4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

感染制御室は、サーベイランスデータに基づいて感染症の発生状況を把握し、関連する所属及び感染対策委員長へ速やかに報告する。

#### 5 感染発生時の対応に関する基本方針

感染制御室は、感染症発生原因の分析、改善策の立案、現場での適切な処置の指導及び監督を行う。また、緊急度に応じて感染対策委員長に相談し、対策を指示・実施する。従事者及び関連する所属は、指示に基づいて感染症発生（診断）時の対応マニュアルに従い迅速に対応する。

#### 6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、本院ホームページと病院正面玄関の掲示板にて患者及び家族が閲覧できるようにする。

7 その他の院内感染対策の推進のための基本方針は必要に応じて病院長が別に定める。

## 8 本指針の周知ならびに見直し及び改訂

- (1) 本指針の内容は、感染対策委員会を通じて、従事者に周知徹底する
- (2) 感染対策委員会は少なくとも毎年1回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ検討するものとする。

### 附 則

この指針は、平成19年4月1日から施行する。

### 附 則

この指針は、平成19年11月6日から施行する。

### 附 則

この指針は、平成20年10月23日から施行する。

### 附 則

この指針は、平成23年5月17日から施行する。

### 附 則

この指針は、平成27年6月16日から施行し、4月1日から適用する。

### 附 則

この指針は、平成29年5月16日から施行し、4月1日から適用する。

### 附 則

この指針は、平成30年5月15日から施行し、4月1日から適用する。

### 附 則

この指針は、令和元年5月21日から施行し、4月1日から適用する。

### 附 則

この指針は、令和3年7月6日から施行し、4月1日から適用する。

別紙05【医薬品に係る研修（参考）】

研修の名称	研修の主な内容 (名称から読み取れる場合は記載不要です)	研修の期間 (開催日)	実施回数 (合計)	参加人数	対象職種	担当部署
新規採用薬説明会		2020年4月7日	4回	18名	薬剤師	薬剤部
		2020年7月2日		21名		
		2020年10月1日		17名		
		2021年1月13日		20名		
名市大連携病院合同化学療法勉強会	がん専門医療者の育成を目的とした勉強会（ZOOM開催） テーマ：がん診療総論、栄養管理／抗がん剤漏出・アナフィラキシーの管理／抗がん剤投与管理・曝露対策／皮疹から見たがん診療マネジメント／発熱から見たがん診療マネジメント／心毒性から見たがん診療マネジメント	2020年9月16日	6回	117名	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、医療事務など	名古屋市立大学大学院医学研究科
		2020年10月21日		118名		
		2020年11月18日		111名		
		2020年12月16日		84名		
		2021年1月20日		76名		
		2021年2月17日		81名		

別紙06【医療機器に係る研修(参考)】

1 医療機器の安全使用のための研修の実施状況(2020年4月～2021年3月)(特定機能病院)

2021/3/31

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
(例)	2009/6/1 2009/6/3	人工呼吸器の取り扱い方	講義、講義映像の視聴	看護師	100	
1	2020/4/21	遺伝子実験機器	講義・実技	臨床検査技師	2	臨床検査技術科
2	2020/5/18	顕微鏡 KINEVO 900	講義・実技	看護師・臨床工学技士	11	中央手術部
3	2020/5/20	顕微鏡 KINEVO 900	講義・実技	看護師・臨床工学技士	13	中央手術部
4	2020/5/22	顕微鏡 KINEVO 900	講義・実技	看護師	12	中央手術部
5	2020/5/25	顕微鏡 KINEVO 900	講義・実技	看護師・臨床工学技士	13	中央手術部
6	2020/5/26	3Dマッピング装置 RHYTHMIA	講義・実技	臨床工学技士	5	臨床工学係
7	2020/6/9	汎用超音波画像診断装置 Vscan	講義・実技	看護師	4	人工透析室
8	2020/6/9	3Dマッピング装置 CARTOシステム	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学係
9	2020/6/11	汎用超音波画像診断装置 Vscan	講義・実技	臨床工学技士	5	臨床工学係
10	2020/6/15	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師・研修医	15	眼科
11	2020/6/15	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師	7	心臓血管外科
12	2020/6/15	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師	25	精神科
13	2020/6/16	汎用超音波画像診断装置 Vscan	講義・実技	臨床工学技士	1	臨床工学係
14	2020/6/22	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師・研修医	10	脳神経内科
15	2020/6/23	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師・研修医	10	放射線科
16	2020/6/23	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師・研修医	6	腎臓内科
17	2020/6/30	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師	20	耳鼻咽喉科
18	2020/6/30	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師	46	消化器内科
19	2020/7/1	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師・研修医	12	脳神経外科
20	2020/7/2	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師・研修医	24	歯科口腔外科
21	2020/7/6	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師・研修医	30	整形外科
22	2020/7/8	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師	8	化学療法室
23	2020/7/8	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師	3	緩和ケア部
24	2020/7/8	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師	18	内科
25	2020/7/8	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師	5	耳鼻科
26	2020/7/8	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師	3	小児科
27	2020/7/8	PHCbi バイオクリーンベンチ	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
28	2020/7/9	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	臨床検査技師	66	臨床検査技術科
29	2020/7/13	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	診療放射線技師	44	放射線技術科
30	2020/7/13	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師	16	産科婦人科
31	2020/7/17	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師	5	総合内科
32	2020/7/20	眼撮影装置 ARTEVO800	講義・実技	看護師・臨床工学技士	14	中央手術部
33	2020/7/20	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師・理学療法士 作業療法士・言語聴覚士	26	リハビリテーション科
34	2020/7/30	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師	15	泌尿器科
35	2020/7/30	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師・研修医	4	形成外科
36	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師	31	15階北病棟
37	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師	5	患者サポートセンター
38	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師	24	7階北病棟
39	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	医師	21	皮膚科
40	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師	42	8階病棟
41	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師	38	17階病棟
42	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師・看護補助者	32	16階北病棟
43	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師・看護補助者	31	16階南病棟
44	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SafetyPlus	看護師・看護補助者	32	15階北病棟

45	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	28	15階南病棟
46	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	37	14階北病棟
47	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	43	14階南病棟
48	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	37	13階北病棟
49	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	29	13階南病棟
50	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	30	12階北病棟
51	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	27	12階南病棟
52	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	30	11階北病棟
53	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	29	11階南病棟
54	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	28	10階南病棟
55	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・保育士・看護補助者	45	9階病棟
56	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	61	NICU・GCU
57	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	25	MFICU
58	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	42	8階病棟
59	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	57	ICUCCU
60	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	72	救命救急センター
61	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	70	中央手術部
62	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	6	泌尿器科
63	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師	2	保健指導室
64	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	6	眼科
65	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	4	人工透析室
66	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	10	脳神経外科
67	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師・看護補助者	8	1階東
68	2020/7/31	自動体外式除細動器 AED-3150	SefetyPlus	看護師	17	看護事務室
69	2020/8/3	眼撮影装置 ARTEVO800	講義・実技	看護師・臨床工学技士	11	中央手術部
70	2020/8/5	眼科用映像システム NGENUITY vision System	講義・実技	看護師	16	中央手術部
71	2020/8/11	人工臓腑 STG-55	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学室
72	2020/8/11	人工臓腑 STG-55	講義・実技	医師・研修医・大学院	10	消化器・代謝内科学
73	2020/8/31	自動体外式除細動器 AED-3150	DVD	業務技師・事務	28	事務課
74	2020/9/6	輸液ポンプ TE-281	講義・実技	看護師・臨床工学技士・委託職員	7	人工透析室
75	2020/10/1	ライトスライク	講義・実技	看護師	28	10階南病棟・9階南病棟・15階南病棟
76	2020/10/14	持続的自動気道陽圧ユニット ドリームステーション Auto	講義・実技	医師	2	睡眠医療センター
77	2020/10/14	持続的自動気道陽圧ユニット ドリームステーション Auto	講義・実技	医師・臨床検査技師・助手	6	睡眠医療センター
78	2020/10/29	マンモトーム用吸引器	講義・実技	医師・診療放射線技師	12	乳腺外科・放射線技術科
79	2020/11/25	ペースメーカ CRT-D 遠隔モニタリング	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工学室
80	2020/11/25	下肢用CPM装置 ARTROMOT-K1	講義・実技	看護師	13	17階病棟
81	2020/11/26	シリンジポンプ SS型3TCI	講義・実技	臨床工学技士	5	臨床工学室
82	2020/12/2	造影剤自動注入装置	講義・実技	診療放射線技師	4	放射線技術科
83	2020/12/3	X線CT装置 SOMATOM Force	講義・実技	診療放射線技師	4	放射線技術科
84	2020/12/7	Singo Via 画像処理ワークステーション	講義・実技	診療放射線技師	3	放射線技術科
85	2020/12/22	アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテル	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学室
86	2020/12/28	超音波診断装置 ARIETTA Plorogue	講義・実技	医師・研修医	7	呼吸器・アレルギー内科
87	2021/3/1	移動型デジタル式汎用X線透視診断装置 OEC Elite シリーズ Super C-Arm	講義・実技	看護師・臨床工学技士	33	中央手術部
88	2021/3/11	フィリップス社製 超音波診断装置	講義・実技	臨床工学技士	4	臨床工学室
89	2021/3/19	12誘導心電計 ECG-2400シリーズ	講義・実技	看護師	4	11階南病棟
90	2021/3/25	直腸周囲ハイドロゲルスペースャ SpaceOAR	講義・実技	医師・研修医・診療放射線技師・看護師	45	放射線技術科
91	2021/3/25	超音波経直腸プローブ (2CH)	講義・実技	医師・研修医・診療放射線技師・看護師	45	放射線技術科

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2020/4/3	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	12	16階北病棟
2	2020/4/14	人工呼吸器 ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	3	17階北病棟
3	2020/4/20	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	26	放射線技術科
4	2020/4/20	人工呼吸器 インファントフローサイパップ	講義・実技	看護師	5	NICU・GCU
5	2020/4/20	閉鎖型保育器 TN500	講義・実技	看護師	5	NICU・GCU
6	2020/4/20	人工呼吸器 ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	5	NICU・GCU
7	2020/4/23	高エネルギーX線発生装置 リニアック	講義・実技	診療放射線技師	26	放射線技術科
8	2020/4/23	高エネルギーX線発生装置 トモセラピー	講義・実技	診療放射線技師	26	放射線技術科
9	2020/4/23	高エネルギーX線発生装置 Radixact	講義・実技	診療放射線技師	26	放射線技術科
10	2020/4/23	高エネルギーX線発生装置 HD	講義・実技	診療放射線技師	26	放射線技術科
11	2020/4/23	密封小線源放射線治療装置 RALS	講義・実技	診療放射線技師	26	放射線技術科
12	2020/5/6	閉鎖型保育器 TN500	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
13	2020/5/15	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	7	ICUCCU
14	2020/5/26	人工呼吸器 ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
15	2020/5/26	人工呼吸器 インファントフローサイパップ	講義・実技	看護師	6	NICU・GCU
16	2020/5/26	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	2	NICU・GCU
17	2020/5/26	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	2	NICU・GCU
18	2020/6/16	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU
19	2020/6/16	人工呼吸器 SLE5000	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU
20	2020/6/16	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU
21	2020/6/16	人工呼吸器 Babylog VN500	講義・実技	看護師	8	NICU・GCU
22	2020/6/18	閉鎖型保育器 TN500	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
23	2020/7/2	人工呼吸器 840	講義・実技	看護師	8	救命救急センター
24	2020/7/7	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
25	2020/7/7	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
26	2020/7/7	人工呼吸器 SLE5000	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
27	2020/7/7	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
28	2020/7/9	人工呼吸器 840	講義・実技	看護師	3	救命救急センター
29	2020/7/30	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	65	全体
30	2020/8/3	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	37	全体
31	2020/8/17	人工呼吸器 アストラル	講義・実技	医師・看護師	12	NICU・GCU
32	2020/8/18	人工呼吸器 アストラル	講義・実技	医師・看護師	8	NICU・GCU
33	2020/8/21	大動脈バルーンパンピング IABP	講義・実技	看護師	8	ICUCCU
34	2020/8/28	人工呼吸器 VIVO50	講義・実技	看護師・臨床工学技士	13	15階南病棟・臨床工学室
35	2020/9/8	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師・臨床工学技士 理学療法士	14	全体
36	2020/9/8	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師	14	全体
37	2020/9/8	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師・臨床工学技士 臨床検査技師	10	全体
38	2020/9/9	人工呼吸器 トリロジーEvo	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学室
39	2020/9/9	補助循環用ポンプカテーテル Impella	講義・実技	医師	2	循環器内科
40	2020/9/10	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師・臨床工学技士 臨床検査技師	24	全体
41	2020/9/10	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師・臨床工学技士 臨床検査技師	24	全体
42	2020/9/10	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師・臨床工学技士 臨床検査技師	24	全体
43	2020/9/11	血液浄化装置 ACH-Σplus	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工学室
44	2020/9/14	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師	10	全体
45	2020/9/14	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師	10	全体
46	2020/9/14	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師	12	全体
47	2020/9/23	補助循環用ポンプカテーテル Impella	講義・実技	医師・臨床工学技士	8	循環器内科・臨床工学室
48	2020/9/24	補助循環用ポンプカテーテル Impella	講義・実技	医師・臨床工学技士	2	循環器内科・臨床工学室

49	2020/9/24	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	70	全体
50	2020/9/28	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師	11	全体
51	2020/9/28	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師	10	全体
52	2020/9/28	除細動器 TEC-5631	講義・実技	看護師・委託職員	22	全体
53	2020/9/28	着用型自動除細動器 ライフベスト	講義・実技	医師・臨床工学技士	13	循環器内科・臨床工 学室
54	2020/9/30	補助循環用ポンプカテーテル Impella	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学室
55	2020/9/30	除細動器 TEC-8352	講義・実技	看護師・委託職員	11	関連部門
56	2020/9/30	除細動器 TEC-8352	講義・実技	看護師・委託職員	10	関連部門
57	2020/9/30	除細動器 TEC-8352	講義・実技	看護師・委託職員	6	関連部門
58	2020/10/5	除細動器 TEC-8352	講義・実技	医師	5	小児科
59	2020/10/6	着用型自動除細動器 ライフベスト	講義・実技	看護師	16	14階北病棟
60	2020/10/6	着用型自動除細動器 ライフベスト	講義・実技	医師・看護師	5	ICUCCU
61	2020/10/7	高エネルギーX線発生装置 リニアック	講義・実技	診療放射線技師	24	放射線技術科
62	2020/10/7	高エネルギーX線発生装置 トモセラピー	講義・実技	診療放射線技師	24	放射線技術科
63	2020/10/7	高エネルギーX線発生装置 Radixact	講義・実技	診療放射線技師	24	放射線技術科
64	2020/10/7	高エネルギーX線発生装置 HD	講義・実技	診療放射線技師	24	放射線技術科
65	2020/10/7	密封小線源放射線治療装置 RALS	講義・実技	診療放射線技師	24	放射線技術科
66	2020/10/27	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	58	全体
67	2020/10/30	人工呼吸器 ASV	講義・実技	看護師	9	14階北病棟
68	2020/11/4	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	34	全体
69	2020/11/17	除細動器 EMS-1052	講義・実技	臨床工学技士	11	臨床工学室
70	2020/11/20	除細動器 EMS-1052	講義・実技	看護師	8	ICUCCU・救命救急セン ター
71	2020/11/24	除細動器 EMS-1052	講義・実技	看護師・臨床検査技師・薬剤師	11	救命救急センター・薬剤 部・臨床検査技術科
72	2020/11/26	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	58	全体
73	2020/11/27	持続緩徐式血液濾過器 セプザイリス	講義・実技	臨床工学技士	15	臨床工学室
74	2020/11/30	除細動器 EMS-1052	講義・実技	看護師	3	救命救急センター
75	2020/12/3	人工呼吸器 トリロジーEvo	講義・実技	看護師	17	全体
76	2020/12/4	人工呼吸器 トリロジーEvo	講義・実技	看護師	21	全体
77	2020/12/7	人工呼吸器 ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	4	救命救急センター
78	2020/12/16	人工呼吸器 トリロジー	講義・実技	看護師・事務	31	全体
79	2020/12/18	循環補助用心内留置型ポンプカテーテル用制御装置 Impella制御装置	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学室
80	2020/12/18	体外循環装置用遠心ポンプ駆動装置 SP-200用バック アップキット	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学室
81	2020/12/23	人工呼吸器 クリーンエア ASTRAL	講義・実技	医師	1	小児科
82	2020/12/25	体外式膜型人工肺 V-V ECMO	講義	臨床工学技士	11	臨床工学室
83	2021/1/14	人工呼吸器 PB980	講義・実技	看護師	5	救命救急センター 9階病棟
84	2021/1/18	人工呼吸器 PB980	講義・実技	看護師	14	救命救急センター 9階病棟
85	2021/1/21	人工呼吸器 PB980	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学室
86	2021/1/28	人工呼吸器 トリロジー	講義・実技	看護師	38	全体
87	2021/1/29	除細動器 TEC-5631	講義・実技	医師	1	消化器内科
88	2021/2/8	人工呼吸器 PB980	講義・実技	医師	8	救命救急センター
89	2021/2/8	人工呼吸器 PB980	講義・実技	医師・研修医	3	救命救急センター
90	2021/2/9	人工呼吸器 ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	13	10階南病棟
91	2021/2/12	人工呼吸器 プレシジョンフロー	講義・実技	看護師	6	救命救急センター
92	2021/2/15	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	医師	4	救命救急センター
93	2021/2/15	人工呼吸器 ハミルトン MR1	講義・実技	医師	4	救命救急センター
94	2021/2/17	人工呼吸器 プレシジョンフロー	講義・実技	看護師	10	救命救急センター
95	2021/2/18	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	医師	12	麻酔科
96	2021/2/18	個人用多用途透析装置 DBB-100NX	講義・実技	看護師・臨床工学技士	6	人工透析部
97	2021/2/22	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	看護師	19	全体
98	2021/2/22	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	看護師	16	全体

99	2021/2/22	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	医師	9	循環器内科
100	2021/2/24	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	看護師	12	全体
101	2021/2/24	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	看護師	7	全体
102	2021/2/24	人工呼吸器 PB840	講義・実技	看護師	8	14階南病棟
103	2021/2/25	人工呼吸器 PB840	講義・実技	看護師	12	14階南病棟
104	2021/2/25	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	看護師	16	全体
105	2021/2/25	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	看護師	11	全体
106	2021/2/25	人工呼吸器 トリロジー	講義・実技	看護師	27	全体
107	2021/2/25	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	医師	7	全体
108	2021/2/26	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	医師	4	麻酔科
109	2021/3/1	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	診療放射線技師	7	中央放射線部
110	2021/3/5	人工呼吸器 PB840	講義・実技	看護師	2	14階南病棟
111	2021/3/9	人工呼吸器 ハミルトン MR1	講義・実技	診療放射線技師	4	中央放射線部
112	2021/3/12	人工呼吸器 PB840	講義・実技	看護師	2	14階南病棟
113	2021/3/15	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	看護師	13	ICUCCU
114	2021/3/15	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	10	12階北病棟
115	2021/3/16	人工呼吸器 ハミルトン C6	講義・実技	看護師	3	ICUCCU
116	2021/3/16	人工呼吸器 クリーンエア ASTRAL	講義・実技	看護師	10	9階南病棟
117	2021/3/22	人工呼吸器 クリーンエア ASTRAL	講義・実技	看護師	10	9階南病棟
118	2021/3/23	人工呼吸器 クリーンエア ASTRAL	講義・実技	看護師	6	9階南病棟
119	2021/3/23	人工呼吸器 ASTRAL	講義・実技	臨床工学技士	6	臨床工学室
120	2021/3/23	人工呼吸器 トリロジー	講義・実技	看護師	29	全体

(注) 1 「特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器」とは、①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置(AEDを除く)、⑤閉鎖式保育器、⑥診療用高エネルギー放射線発生装置、⑦診療用放射線照射装置です。

### ③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2020/4/7	3Dマッピング装置	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工学室
2	2020/5/6	開放型保育器 インファウオーマー-i	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
3	2020/5/29	イオン導入装置 イオントフォレーション IP-30 PLUS	講義・実技	医師・看護師	3	麻酔科
4	2020/6/1	カード用全自動輸血検査装置 IH-500	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
5	2020/6/1	血液型分析装置 カード用リーダー Banjo	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
6	2020/6/1	自動血球分析装置 DxH900	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
7	2020/6/1	自動分析装置 LABOSPECT 008 α	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
8	2020/6/1	全自動血液凝固測定装置 CN-6000	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
9	2020/6/1	汎用血液ガス分析装置 ABL90 FLEX PLUS	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
10	2020/6/1	全自動免疫測定装置 HISCL-5000	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
11	2020/6/1	尿自動分析装置 US-2200	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
12	2020/6/1	ARCHITECT i2000SR	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
13	2020/6/1	ルミパルス G2400	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
14	2020/6/1	全自動微生物培養検出装置 BACT/ALERT	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
15	2020/6/1	カード用全自動輸血検査装置 IH-500	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
16	2020/6/1	Micro Typing System IH-Com/Banjo	講義・実技	臨床検査技師	6	臨床検査技術科
17	2020/6/18	開放型保育器 インファウオーマー-i	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
18	2020/6/18	開放型保育器 V-505HL	講義・実技	看護師	3	NICU・GCU
19	2020/6/30	心臓カテーテル用検査装置	講義・実技	臨床工学技士	6	臨床工学室
20	2020/7/3	循環器用超音波画像診断装置 S5 イメージングシステム	講義・実技	臨床工学技士	11	臨床工学室
21	2020/7/14	光干渉断層撮影装置 OPTIS OCT Imaging System	講義	臨床工学技士	10	臨床工学室
22	2020/7/16	内視鏡	講義・実技	看護師	12	内視鏡医療センター
23	2020/7/28	持続吸引ドレーン J-VAC	講義・実技	臨床工学技士・委託職員	4	臨床工学室

24	2020/8/3	酸素濃縮措置 小夏3	講義・実技	看護師	9	NICU・GCU
25	2020/8/3	ダイオードレーザー ELVeSレーザー	講義・実技	看護師	17	中央手術部
26	2020/8/4	中心・末梢静脈血圧モニタ Pressure Wire	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工教室
27	2020/8/5	酸素濃縮措置 ハイサンZi	講義・実技	看護師	12	NICU・GCU
28	2020/8/17	移動型デジタル式汎用X線透視診断装置 OEC EXITECFD premium mobile C-arm	講義・実技	医師・診療放射線技師 臨床工学技士	11	中央手術部
29	2020/8/18	腹水濾過濃縮再静注法 CART	講義	看護師	9	14階北病棟
30	2020/8/19	下肢静脈瘤治療用半導体レーザー ELVesレーザー1470	講義・実技	医師・看護師	14	中央手術部
31	2020/8/20	下肢静脈瘤治療用半導体レーザー ELVesレーザー1470	講義・実技	看護師	11	中央手術部
32	2020/8/21	下肢静脈瘤治療用半導体レーザー ELVesレーザー1470	講義・実技	看護師	11	中央手術部
33	2020/8/25	低体温療法 アークティックサン	講義・実技	臨床工学技士	13	臨床工教室
34	2020/9/8	OCT画像診断装置	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工教室
35	2020/9/15	インスリンポンプ ミニメド600	講義・実技	臨床工学技士・委託職員	13	臨床工教室
36	2020/9/29	ゼオンメディカル POLARIS FFR/dPR	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工教室
37	2020/10/1	セントラルモニタ	講義・実技	医師・看護師	24	15階北病棟
38	2020/10/1	生体情報モニタ IntellVue MX700	講義・実技	看護師	30	看護部
39	2020/10/1	体成分分析装置 In Body770	講義・実技	管理栄養士	9	栄養管理係
40	2020/10/1	体成分分析装置 In BodyS10	講義・実技	管理栄養士	9	栄養管理係
41	2020/10/2	血管相超音波診断装置IVUS iLabボラリスマルチモダリティガイダンスシステム	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工教室
42	2020/10/6	血管相超音波診断装置IVUS TERUMO VISICUVE	講義・実技	臨床工学技士	11	臨床工教室
43	2020/10/12	体成分分析装置 In Body770	講義・実技	管理栄養士	9	栄養管理係
44	2020/10/12	体成分分析装置 In BodyS10	講義・実技	管理栄養士	9	栄養管理係
45	2020/10/13	超音波診断装置 CUSA Excel	講義・実技	看護師	15	中央手術部
46	2020/10/13	PCI関連デバイス	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工教室
47	2020/10/14	超音波診断装置 CUSA Excel	講義・実技	看護師・臨床工学技士	20	中央手術部
48	2020/10/16	術中脳神経機能モニタリングシステム ニューロマスター	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工教室
49	2020/10/20	神経刺激装置 Stimuplex HNS12	講義・実技	臨床工学技士	6	中央手術部
50	2020/10/23	PCI関連デバイス 飛脚	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工教室
51	2020/10/23	PCI関連デバイス Thrombusten	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工教室
52	2020/10/23	PCI関連デバイス Ryusei	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工教室
53	2020/10/27	両室ペースメーカー付植込み型除細動器 Gallant HF	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工教室
54	2020/10/28	術中脳神経機能モニタリングシステム ニューロマスター	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工教室
55	2020/10/29	酸素療法	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工教室
56	2020/11/10	術中脳神経機能モニタリングシステム ニューロマスター	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工教室
57	2020/11/10	セントラルモニタ	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工教室
58	2020/11/12	PCIデバイス カuttingバルーン WOLVERINE	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工教室
59	2020/11/12	PCIデバイス ステント SYNERGY XD	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工教室
60	2020/11/18	PCI関連デバイス ガイディングエクステンション	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工教室
61	2020/11/18	PCI関連デバイス ガイディングカテーテル Launcher	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工教室
62	2020/11/18	PCI関連デバイス 血栓吸引カテーテル ExpertAdvacing	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工教室
63	2020/12/3	ペースメーカー	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工教室
64	2020/12/8	血液凝固分析装置 Fibcare	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工教室
65	2020/12/10	ペースメーカー・ICD・CRTD	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工教室
66	2020/12/15	アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテル ロータブレーター	講義・実技	臨床工学技士	11	臨床工教室
67	2020/12/15	セントラルモニタ	講義・実技	看護師	12	15階南病棟
68	2020/12/17	ペースメーカー	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工教室
69	2020/12/21	セントラルモニタ	講義・実技	看護師	9	15階南病棟
70	2020/12/24	ペースメーカー	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工教室
71	2021/1/7	ペースメーカー	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工教室
72	2021/1/8	中心循環系動静脈カニューレ	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工教室
73	2021/1/14	ペースメーカー	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工教室

74	2021/1/27	脳深部刺激療法 DBS	講義・実技	臨床工学技士	16	臨床工学室
75	2021/2/2	呼気ガス分析装置 FIT-2100	講義・実技	管理栄養士	3	栄養管理係
76	2021/2/17	炭酸ガスレーザー アクュパルスDUO	講義・実技	看護師・臨床工学技士	20	中央手術部
77	2021/2/26	生体情報モニター IntellVue X3/MX100	講義・実技	医師・看護師	2	麻酔科
78	2021/3/1	汎用超音波画像診断装置 EPIQ Affiniti	講義・実技	診療放射線技師	4	放射線技術科
79	2021/3/9	汎用超音波画像診断装置 EPIQ Affiniti	講義・実技	医師	3	小児科
80	2021/3/12	汎用超音波画像診断装置 EPIQ Affiniti	講義・実技	医師	5	循環器内科
81	2021/3/26	エアパッド特定加温装置コントロールユニット ベアーハガー	講義・実技	臨床工学技士・委託職員	8	臨床工学室